

第四十一回 貴族院議事速記録第十四號

大正八年三月一日(土曜日)

午前十時一分開議

議事日程 第十四號 大正八年三月一日

午前十時開議

第一 男爵後藤新平君、杉田定一君、田中源太郎君、三木與吉郎君請暇ノ件

第二 大正八年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審査期限ヲ定ムルノ件

第三 道路法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 大正六年法律第六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案 第一讀會

第六 高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案 第一讀會

第七 裁判所ノ設立ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第二讀會

第八 大正二年法律第九號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第二讀會

第九 不動産登記法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第二讀會

第十 帝國大學特別會計法中改正法律案 第一讀會

第十一 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十二 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十三 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十四 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十五 大正七年法律第四號中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案
大正七年度各特別會計歳入歳出總豫算追加案(特第一號)

同日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル銚子港修築ノ請願外十一件ノ

請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

同日議決シタル決議文ハ即日之ヲ外務大臣ニ送致セリ

○國務大臣(男爵高橋是清君) 本案ハ高等諸學校ノ創設及擴張ニ關シマスル經費デ、其大要ヲ述ベマスレバ、總費額四千四百五十餘万圓デゴザイマス、之ヲ大正八年度以降六箇年度間ニ支出スルモノデゴザイマシテ、其大正八年度ノ金額ハ二百九十餘万圓デゴザイマス、其計畫ノ内容ハ大體學校ノ創設擴張及教員養成ノ二項目ヲ骨子ト致シマシテ、尙ホ之ニ隨伴スル所ノ事務費ヲ加ヘテ三項目ニ分レテ居リマス、然ル所右計畫ニ對シマシテ畏クモ御内帑金一千萬圓ヲ下賜相成ルベキ御沙汰ガゴザイマシタニ付キ、右御下賜金及公債又ハ借入金ヲ以テ之ヲ支辨スルノ計畫ヲ立テタノデアリマス、御内帑金ハ毎年二百萬圓ヅ、五箇年度ニ互ツテ下賜セラルベキ御沙汰デアリマスカラ、大正八年度ニ於キマシテハ九十餘萬圓ニ依ル計畫ト致シタノデゴザイマス、御審議ノ上速ニ御協賛アラムコトヲ望ミマス

○男爵石黒忠恵君 本員ハ政府ニ質問ガゴザイマス、此案ニモ御下賜ト申シマスル字ガゴザイマス、又唯今大臣ノ御説明中ニモ内帑ヨリ賜ハルト云フコトガゴザイマシテ、陛下ガ教育ノコト、殊ニ此青年ニ對シテノ厚キ御思召ノ斯クマデアラセラレルト云フコトハ深ク感佩イタシマスルノデ、此深ク感佩イタシマスルト共ニ、是ガ御下賜ニ相成リマシタ經過ヲ拜聴イタシマシテ、此感ヲ深ク致シタウ存ジマス、竝ニ此御下賜ノゴザイマシタノハ如何ナル御沙汰書ガゴザイマシタカト云フコトヲ拜承イタシマシテ、益、感ヲ深ク致シタウ存ジマスノデ、其ニツヲ承リタウ存ジマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 甚ダ申譯アリマセヌガ、唯今石黒男爵ヨリ御尋ガアリマシタ御趣意ヲ、少シ遅刻ヲ致シマシテ十分ニ聴取リ兼ネマシタカラ、勝手デゴザイマスガ、モウ一度ドウゾ御話ヲ願ヒマス

○男爵石黒忠恵君 然ラバ繰返シマス、本案ノ説明ニ御下賜金ト云フ文字ガゴザイマス、唯今大藏大臣ノ御説明中ニモ御下賜云々ト云フコトガゴザイマシタ、本員ハ陛下ガ斯クマデ教育ノコトニ御心ヲ寄セサセタマフト云フコト、青年ノ上ニ付テ深キ御思召ヲ垂レサセタマフト云フコトニ付キマシテハ、深ク感激イタシマスノデゴザイマス、此感激イタシマスルト共ニ、此御下賜金ガ如何ナル經過デ御下賜ニ相成リマシタカト云フコトヲ承リマシテ、且又此御下賜金ニ付キマシテ如何ナル御沙汰ガゴザイマシタカト云フコトヲ承リマシテ、益、此有難キ感ジテ深ク致シタウ存ジマスノデ、此ニツノコトヲ承リタ

イ、斯様ニ質問イタシマシタノデアリマス

○國務大臣(中橋德五郎君) 能ク分リマシタデス、御答ヲ致シマス、昨年現内閣ガ成立イタシマシタカラ、豫テ教育振興ト云フコトモ同志ノ者ガ熱心ニ唱ヘ講究ヲシテ居リマシタ結果、先ヅ第一ニ此教育ノ方ノ振興ニ付テ計畫ヲ立テタイト云フ考ヲ起シマシテ、ソレト調査ヲ始メタ譯デアリマス、然ルニ一昨年以來設ケラレテアリマシタ所ノ彼ノ臨時教育會議ニ於テ、段々御研究ニナツテ、御答申ニナツタ答申案モ澤山アリマス、彼レ此レ研究イタシマシタ中デ、其答申ニ基イタル計畫モ致シタシ、又他ノ計畫モ致シタイト云フコトノ考ヲ起シマシテ、一面ニハ上ハ大學ヨリ下ハ初等教育ニ從事シテ居リマスル教官ノ待遇ト云フモノヲ、改善ヲ致シタイト云フ考ヲ起シマシタ、又一面ニハ高等教育機關ハ今日設備ガ非常ニ遅レテ居ルト云フコトヲ考ヘマシテ、此缺陷ヲ補ヒタイト云フコトニ付キマシテ、高等教育機關ノ増設ト云フモノヲ計畫スルト云フ案ヲ調査研究シタ譯デアリマス、色、ノ案ヲ調査イタシマスルニ彼レ此レ日ヲ費シテ居リマシタガ、其事ガ圖ラズモ敍聞ニ達シマシテ、内帑御下賜ノ御達ヲ蒙ツタ譯デアリマス、此御内帑金ノ御達ハ總理大臣ヲ御呼出ニナリマシテ、御達ニナツタノデアリマス、茲ニ其御達文ヲ朗讀イタシマセウデアリマス、昨年ノ十二月二十五日デアリマス、斯ウ云フ文章デアリマス、高等教育機關擴張ノ計畫有之趣被聞食思召ヲ以テ内帑金一千萬圓下賜候旨御沙汰被爲在候」斯ウ云フ御達ガアッタノデアリマス、斯ノ如キ有難キ思召ヲ蒙リマシタニ付キマシテハ、當局者ニ於キマシテハ愈、此擴張案ヲ纏メマシテ、熱心之ガ遂行ニ從事イタスコトニ相成ッタノデアリマス、此纏メマシタモノハ、即チ本日本院ノ會議ニ御願ヒ致シマスル第二號大正八年度追加豫算案デアリマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○男爵石黒忠恵君 唯今文部大臣ノ御説明ヲ承リマシテ、本員ハ益、陛下ノ大御心ヲ有難ク感佩イタシマス次第デアリマス、政府ハ若シ此御下賜金ガゴザイマセヌカッタラバ、此計畫ハ如何ニナサルノデゴザイマセウ

○國務大臣(中橋德五郎君) 御答イタシマスガ、此下賜金ガ若シナカッタトシタトキニハドウスルカト云フ御話デアリマスルガ、ソレハ計畫ノ途中ニ此御沙汰ガアリマシタカラ、愈、私共感激ヲ致シマシテ此計畫ヲ進行シタ譯デアリマスガ、サウ云フ事實ノ經過ニ相成ツテ來タノデアリマス、蓋シ万一ニモ此御

沙汰ガアリマセスニ致シマシテモ、多分進行ヲ致シテ居ッテラウト思ヒマスガ、ソレハ唯想像ニ過ギマセス

○男爵石黒忠恵君 然ラバ政府ハ此御下賜金ガゴザイマセスカッタラバ、此計畫ノ中デ即チ本年ハ二百九十八万六千四百三十圓トゴザイマスガ、政府ハ九十八万六千四百三十圓デ之ヲ計畫サレルノデゴザイマセウカ、斯ノ如キ御間ヲ致シマスノハ、本員ハ政ヲ爲ス人ガ、當然國費ヲ以テ國事ヲ營ミマス云フ上ニ付キマシテ、御下賜金殊ニ莫大ノ御下賜金ヲ得マスルト云フコトハ餘程ハ考ヘマセスケレバ相成リマセスコトノヤウニ考ヘマスデ、斯ノ如キ間ヲ致シマスノデアリマスガ、若シ御下賜金ガゴザイマセスカッタラバ、九十八万圓デ此計畫ヲ爲サレルト云フ積リデゴザイマセウカ

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 是ハ斯ウ云フコトニナッテ居リマス、全體ノ計畫ハ四千四百五十餘万圓ノ計畫デアリマス、其中デ本年度ニ出テ居ルモノガ二百九十何万圓、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマス、二百九十何万圓デハ計畫ノ遂行ハ出來ナイノデアリマス、ソレカラ若シ政府ガ此計畫ヲ遂行シマスルトスレバ、大體四千四百五十万圓ナクッテハ、是ダケノ學校ハ出來ナイノデアリマス、此際ニ併セテ全體ノ計畫ヲ御説明申上ゲテ宜ケレバ、ソレヲ申上ゲタ方ガ餘程御參考ニナルカモ知レマセス、サウ云フコトニ致シマセウカ

○男爵石黒忠恵君 議事ノ進行ノ爲ニ、私ハ詳シイ御説明ヲ得マセスデモ宜シウゴザイマス、尙ホ豫算委員會モゴザイマス、併ナガラ唯今ノ仰セヲ承リマス、本年ハ二百万圓デアリマス、二百万圓ヅ、十箇年ト云フコトデアリマスカラ都合二千万圓ニナリマスコトハ本員ノ粗糲ノ頭デモ勘定ガ出來マス而シテ今日本年ノ歳出ニ當ッテ申シマス、二百万圓ト云フモノガ下賜ニナリマシテ、アトガ九十何万圓デゴザイマス、若シモ當年下賜ガゴザイマセスケレバ、當年ノ年度割ハ九十何万圓ト云フモノニナル譯デゴザイマセウカ、伺ヒタイ

○國務大臣(中橋德五郎君) ソレハサウデアリマセス、御下賜金ノ有無ニ關ラズ、此計畫ハ二百九十何万圓ノ計畫デアリマス、サウ云フ計畫ニナッテ居リマス、御下賜金ハ内帑ヨリシテ、本年度ヨリ向ウ五箇年間ニ一千万圓御下賜ニナルト云フ御達ガアリマシタノデアリマスガ、或ハ大正九年度ヨリ御下賜ニナリマシテモ、十年度ヨリ御下賜ニナリマシテモ、計畫ニ變リハアリマ

セス、一個ノ財源ニナッテ居リマス、サウスルト本年ハ借入金若クハ公債ヲ以テ二百九十何万圓ト云フモノヲ支出スル譯ニナリマス

○男爵石黒忠恵君 續イテ伺ヒマス、サウ致シマス、政府ノ御計畫ハ今大臣ノ御達ニナリマシタ額デ御計畫ニナッタ所デ、其上ニ一千万圓ト云フモノノ御下賜金ガゴザイマシタノデ、幸ニ其御下賜金ガゴザイマシタカラ、其中デ御差引ニナッテ云々ト云フ譯デゴザイマセスカ

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 御下賜金ノ御話デアリマスガ、十分私ハ御尋ノ御趣意ヲ了解イタシ兼ネマスガ、斯ウ云フコトニ思ウテ御返事ヲ致シタイト思ヒマス、計畫ハ學校ノ數ヲ減スカ何カシマセス以上ハ、金額ハ減ラナイノデアリマス、ソレデ四千四百五十万圓デ大體今日アル所ノ官立ノ各種專門學校以上、大學合セテ三四十アルノデアリマス、私立ガ六十餘アルノデアリマス、是デ生徒ヲ一万三千バカリ、大正六年度ノ統計ニ依リマス云フト、收容シテ上ノ方ニ上セタ譯デアリマス、所ガ本年……大正六年、七年ノ中學ノ卒業生ノ總數ハ二万一千有餘ト云フコトニナッテ居ル、是ガ年々増シテ行キマスカラ、七年先キニ於キマシテハ是ガ三万ニナルト云フ推定ヲ致シタノデアリマス、三万ノ中少クトモ二万ハ上級ニ進ムコトニ、從來ノ實驗ニ依リマシテ、推定ヲ致シマシタ、二万人全部ヲ收容スル機關ヲ拵ヘルト云フノガ、本案ノ骨子デアリマス、サウシテ二万人ノ中一万三千餘人、一万四千人バカリト云フモノハ現在ノ官立學校六千餘……公私立デ七千有餘ト云フモノヲ收容シテ居リマス、残り六千バカリト云フモノヲ收容スルモノヲ拵ヘナケレバナラス、其六千ノ中現ニ昨年ノ帝國議會ニ於テ御協賛ニナリマシタル十校竝ニ本年度ノ總豫算ニアリマス四校、此高等機關ニ依リマシテ一千有餘人ト云フモノヲ收容スル計畫ニナッテ居リマス、後トノ残り四千有餘ト云フモノヲ此追加豫算ニ依ッテ收容スル、斯ウ云フ計畫カラ出テ居ルノデアリマス、其計畫デ進ムノデアリマスカラ、此計畫ヲ實行スル上ニ付キマシテハ財源ノ如何ニ拘ラズ、當局ニ於テハ四千四百五十万圓ト云フモノヲ要スル、斯ウ云フ計畫ヲ立テタ譯デアリマス

○男爵石黒忠恵君 尙ホ伺ヒマス、本員ノ質問イタシマスノハ少々不辯デ御分リニナラナイカト思ヒマスガ、本員ハ斯様ニ承ルノデ、四千四百五十万圓ノ金額ヲ要スルト云フコトハ、既ニ閣議ニ於テ御定リニナッタ所ヘ新ニ一千万

圓御下賜ニナリマシタノデアリマス、當リ前ノ計畫ヨリモ其御下賜金ノ爲ニ、其計畫ノ擴張スルトカ、良クナルトカ云フコトガナクテハナラヌト云フ譯デアリマスガ、此四千何百何十何万圓ト云フ中へ恩賜ニナリマシタノデアリマスガ、斯ウ云フコトヲ承リタイ、ソレトモウ一ツハ、唯今ノ段々ノ御説明ニ依ルト當然國家ガ爲スベキ事デゴザイマスノニ、之ヲ總豫算ニ御出シニナラント、追加デ御出シニナルノハドウ云フ譯デゴザイマスガ、是モ承リタウゴザイマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 能ク分リマシタ、政府ニ於テ計畫中ニ御下賜ニナツタノデアリマス、閣議デ決定シタル後ニ出タノデアリマセヌ、考案中ニ御下賜ニナツタノデアリマス、ソレカラ今一ツハ……

○男爵石黒忠恵君 ソレヲ追加デ御出シニナツタノヲ……

○國務大臣(中橋德五郎君) ソレハ斯ウ云フ譯デアリマス、實ハ現内閣ハ昨年ノ九月二十九日ニ成立イタシマシテ、其當時ニハ既ニ前内閣ニ於テ豫算概算ノ編成ヲ結了シテ居ッタ譯デ、概算ノ審査ハ終ッテ居リマセヌガ、更迭後日ガ淺クテソレヨリ豫算審査、要求書ノ作成竝ニ印刷等ノ日ヲ勘定シテ參リマスト、ナカ／＼日ガ迫ッテ動キガ取レナカッタノデ、ソコデ大體前ノ概算ニ依リマシテ、多少ノ取捨ヲ各省ニ加ヘマシテ、閣議ニ掛ケテ決定シタノデアリマス、然ル所ガ其當時ニハ此追加豫算ノ計畫ハ初メテ調査ニ著手シタ譯デ、マダ纏リ兼ネタノデアリマス、之ヲ待ッテ居リマス、總豫算等ノ締切ニ間ニ合ハナイカラ、ソレデ總豫算ハ總豫算デ締切ッテ進行イタシマシテ、サウシテ此計畫ハ後ノ追加ニイタシタ、斯ウ云フ順序ニナツテ居リマス、此計畫モ度々研究イタシマシテ色々ニ變ヘタモノデアリマスカラ、相當ノ時日ヲ要シマシタ、是ハ殆ド先ニ準備ガナカッタノデ、總豫算ノモノハ昨年六月以來、各省ニ於テ相當ノ準備ヲシテ、ソレ／＼ノ手續ヲ經テ、練ッテ出テ居ッタモノデアリマスカラ、大變ヤリ易ウゴザイマシタガ、追加豫算ニ致シマシタ趣意ハサウ云フ譯デ、出來ルナラバ總豫算ニ入レタカッタノデアリマスガ、餘程纏リガ遅レテ、之ニ入レルコトガ出來ナカッタ譯デアリマス

○男爵石黒忠恵君 諄ク伺ッテ相濟ミマセヌガ、唯今ノ御説明ニ依リマス、内閣デ此事ヲ審議イタサレマシテ、未ダ決定イタサレマセヌ中ニ、此事ヲ聞食サレ御下賜ニナリマシタヤウニ承リマシタガ、決定イタシマセヌノニ御下賜

ヲ御受ニナルト云フノハ、何ダカ本員ノ考デハ如何ニモ輕率ノヤウニ怪ミマスガ、ドンナモノデゴザイマセウカ、承ッテ見タウゴザイマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 是モ御尤ノ御懸念ノヤウニ思ヒマスガ、豫テ教育振興ノコトヲ熱心ニ私共ノ同志ハ考ヘテ居ッタノデアリマス……デ是非振興シタイト云フ考ハ、皆ノ頭ニ存シテ居ッタノデアリマス、唯今申上ゲタノハ閣議ニ於テ確定シテハ居ナカッタ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ドウカシテヤッテ見タイト云フ譯デ進行イタシテ居ッタノデアリマス

○男爵石黒忠恵君 閣議ニ於テ確定ヲ致シマセヌ中ニ御下賜金ヲ御受ニナリマスコトガ出來マセウカ、本員ハ甚ダ右等ノコトヲ心配イタシマス者デ、甚本員ハ怪ミマス、閣議ノ未ダ決定イタサヌノニ御下賜金ガアッテ、ソレヲ御受ニナツタ、若シソレガ不確定ニナツタラ、ドウナサル御積リデゴザイマセウカ

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) ソレハ斯ウ云フコトデアリマス、閣議ニ於テハ計畫ヲヤラウト云フコトハ相談ヲ決シテ居ッタノデアリマス、併シ年限金額等ニ付キマシテハ色々研究シタモノデアリマス、ソレデ決定イタサナイト申上ゲタノデアリマス

〔阪本鈺之助君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公卿德川家達君) 阪本鈺之助君

〔男爵石黒忠恵君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公卿德川家達君) 阪本君ニ發言ヲ許シマシタ

○阪本鈺之助君 私ハ此問題ニ付キマシテハ大ニ意見ヲ持ツモノデアリマスガ、豫算委員會其他ノ機會ニ於テ十分ニ尙ホ質問ヲ致シタイト存ジマシテ、今日ハ差控ヘル積リデアリマシタガ、唯今石黒男爵ノ御問答ニ付キマシテ、大ニ疑ヲ生ジマシタ、其事ヲ問ヒタイト存ジマスガ、尙ホ石黒男爵ハ御尋ニナリタイコトガアルヤウニ思ヒマス、或ハ本員ガ問ハムトスル所ニ及ブカ知リマセヌカラ、先ヅ石黒男爵ニ願ヒマシテ、若シ其所マデノ御質問ガナカタトキニハ一回本員ニモ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス

○男爵石黒忠恵君 唯今ノ文部大臣ノ御答ニ依リマシテ、本員ハ一層疑ヲ起シマスノデアリマス、或ハ確タル金額上ノ決定ヲセヌデアッタト言ハレマス

レドモ、詰リ煎ズル所ガ閣議ノ未ダ確定シナイ、決ラヌ、決ラヌ中ニ御下賜金ヲ御受ニナツタコトヲ、今明白ニ御自白ニナツテ居ル事實アル、苟モ陛下ノ斯ノ如キ思召ノアル御下賜金ヲバ、閣議ノ決定シナイ中ニ御受ニナルト云フコトハ、本員ハ益之ヲ怪シム、幸ニ總理大臣モ御出席ニナリマシタカラ、總理大臣ニ承リタウゴザイマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今御質問半バニ出席イタシマシテ、御趣意ヲ能ク了解イタシマセヌガ、ドウゾ簡單ニ質問ノ御趣意ヲ承リタイ

○男爵石黒忠恵君 度々デゴザイマスガ、繰返シマス、本員ガ承リマスノハ斯様ナ譯デゴザイマス、長タラシクテ御聴キ苦シウゴザイマセウガ、最初カラ申上ゲマス、唯今日程ニ上ツテ居リマス本案ニ、御下賜金ト申シマス文字ガゴザイマス、又最初ニ大藏大臣ガ御陳述ニナリマシタノニモ御下賜金ノコトガゴザイマシタノデ、本員ハ陛下ガ教育ノコト、學校制度ノコトニ付テ、斯クマデ厚キ思召ガアラセラレテ、是マデ餘リ類例ノナイ多額ノ金ヲ内帑カラ御下賜ニナツテ、學校増設等ニ思召ヲ掛ケサセラレルコトハ實ニ感激ニ堪ヘマセヌ、故ニ下賜ニナリマシタ經過竝ニ下賜ニナリマシタ御沙汰書ヲ拜承イタシマシテ、サウシテ益、其感ヲ深ク致シタウ存ジマスノデ、此二箇條ヲ承リタイ、所ガ御沙汰書ノ讀上ヲ敬承イタシマシテ、益、其感ヲ深ク致シマシタ、ソレカラ下賜ノ段々經過ヲ承リマス、此事ハ必要ヲ政府デ御感ジニナツテ、閣議デ議シテ、サウシテ決定シナイ中ニ此金ヲ御下賜ニナツタ、斯様ナ仰セデア、ソレデ本員ハ閣議デ決定イタサヌ中ニ、其事ヲ聞食サレマシテ御下賜ニナルト云フコトハ、益、私ハ深ク感嘆イタシマスガ、片一方、閣員ノ方デ閣議デ決定セヌノニ御下賜ニナツタモノヲ御受ニナリマシテ、萬々一閣議ガ之ヲ否決イタシタ時ニハドウナル御積リデアルカ、恩賜ト云フモノニハ私ハ頗ル重シ置イテ感佩イタシテ、私ハ今日ハ涙組ンデ此事ヲ質問イタシテ居ルノニ、閣議デ決定シナイ中ニ恩賜ノモノヲ御受ニナルト云フノハ何等ノコトカト本員ハ怪シム、故ニ本員ノ怪ミノ解ケマシテ、洵ニ此恩賜ニ感嘆イタシマスル感激ノ心ヲ益、厚カラシムルヤウニ、明瞭ニ總理大臣カラ御辯明ヲ願ヒタウゴザイマス

○國務大臣(原敬君) 承知イタシマシタ、其事ナラバ先般當議場ニ於テ、詳シク説明ヲ致シタコトガアルノデアリマスガ、ドウ云フ當局者ヨリ御答ヲ致

シタカハ私ハ唯今出席イタシマシテ承リ居リマセヌ、居リマセヌガ、先般當議場ニ於テ私ノ説明イタシタ趣意ヲ茲ニ繰返シマスレバ、御了解ヲ得ルコトト存ズルノデアリマス、其事ハ段々教育機關モ從來歷代ノ當局者ノ施設ニ依ッテ整理イタシタ、完備イタシタモノガアルノデアリマスガ、其事ハ如何セム高等教育機關ガ非常ニ不足デアリマス、之ガ爲ニ年々數万ノ學生ガ依リ途ガナイノデアリマス、茲ニ於テドウシテモ此缺點ヲ補フ計畫ヲ立テズンバ教育ノ完全ヲ期スルコトガ出來ナイト考ヘタノデアリマス、而シテ他ノ一面ニ於テハ臨時教育會議ノ決議ニ依リマシテ、此決議ノ趣旨ヲ參酌イタシマシテ、大學令ヲ初トシテ、諸教育令ノ發布モ致シマシタノデアリマス、制度ガ整ヒ而シテ高等教育機關ハ極メテ不足ト云フコトニナツテ居リマスカラ、ドウシテモ此教育機關ノ不足ヲ補ハヌケレバ完全ヲ期スルコトガ出來ナイノデアリマス、茲ニ於テ此教育機關ノ完成ヲ期スル爲ニ種々苦心ヲ致シタノデアリマス、固ヨリドレダケノ學校ガナケレバナラズ、ドウ云フ設備ヲ致セバ宜イト云フコトハ調査ニ依ッテ分リマシタケレドモ、此財源ニ於テ甚ダ困難ヲ致シタノデ、ト申スモノハ唯今ノ財政ヨリ更ニ大ニ財政上ノ計畫ヲ立テ直セバ格別、今日ノ狀態ヨリ申シマスレバ、ナカ／＼此財源ヲ得ルノニ困難ヲ致スノデ、故ニ矢張り歷代ノ當局者モ苦心ノ結果僅バカリノ機關ヲ漸次ニ立テタルノ已ムヲ得ザルニ在ッタノデアリマス、併シ斯ノ如キコトヲ以テ長ク計畫スルコトハ出來マセヌカラ、是非今回十分ナル計畫ヲ立テテ實行イタシタイ、サレバト云ッテ其財源ニ甚ダ苦シミマス、斯ウ云フ次第デアッタノデアリマス、ソコデ學校ハドレダケ必要トスルカ、ドウ云フ種類ノ學校ガ宜イカ、此事ハ調査ノ結果ニ依ッテ決メラレルノデアリマス、倍ソレガ確定イタシマシテ、唯今財源ノ一段ニ至ッテ如何トモ方法ガアリマセヌ、ソレ故ニ是ハ一時的ノ費用デアリマス、之ヲ維持スル所ノモノハ經常費ノ普通財源ニ依リマスケレドモ、此機關ヲ擴張スルト云フダケハ一時的ノ費用デアリマスカラ、已ムヲ得ズ公債竝ニ借入金ニ依ッテ之ヲ填補イタサウト云フ計畫ヲ立テタルデアリマス、斯様ナル計畫ヲ立テ、議會ノ開會ヲ待ッテ提出スルノ運ビニ致シタイト、政府ニ於テ考慮中、端ナクモ是ガ上聞ニ達シテ、其費用ノ中ニ一千万圓御下賜ノ御沙汰ヲ拜シタノデアリマス、如何ニモ私共恐懼感激ノ至ニ堪ヘヌノデアリマス、實際ノ顛末ハ斯様ナル次第デアリマス、固ヨリ何等ノ計畫モナク、全ク未熟ノ間ニ御下賜金ガアッタト云フ次第デアリマセヌ、此計畫ヲ立テ、財源ニ窮シ、其財

源ハ公債借入金ニ依ル外ナイト政府ハ決定イタシタノデアリマス、然ル所有難クモ思召ニ依ッテ一千万圓ヲ下賜サレタ、ソレニ依ッテ以テ全國年々數万ノ子弟ハ此恩惠ニ浴スルコト思ヒマシテ、旁、深ク感激ニ堪ヘヌ次第デアリマス、頗末ハ左様ナ次第デアリマス

○男爵石黒忠恵君 今ノ總理大臣ノ御説明ニ依リマシテ了解イタシマス、斯様ナコトデゴザイマスヤウデ、閣議ガ決定セヌノニ下賜ヲ御受ニナッタト云フノデナク、閣議ガ決定シタ上ニ下賜ヲ御受ニナリマシタト云フコトデアリマスガ、是ハ文部大臣ノ申サレマスヨリ總理大臣ノ申サレマシタ方ヲ信ジマス、斯様ナ次第デゴザイマスガ、然ラバ此恩賜ナルモノハ閣議ノ決定後デゴザイマス、例ヘバ閣議ノ決定ハ例ヘテ申シマスレバ、學校十ト申シマスモノヲ恩賜ノ爲ニ二校ヲ増シタトカ、何トカ閣議ノ決定ノ上ニ恩賜ノ金額ノ爲ニ餘計ニ惠澤ヲ蒙ッテ居ルモノト存ジマスガ、ソレハ此案ノ上デ申シマスルト、何レノ所デゴザイマスカ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 閣議ノ決定ナルモノハ御承知ノ通り内閣ノ内輪ノ相談デアリマスカラ、立法院ノ決議ノヤウナモノデハ無論アリマセヌガ、私ハ是ハ説明スルマデモナイノデ、併ナガラ其決定ガ恩賜ガアッタニ依ッテ或ル一二ノ學校ヲ増設イタシタイト云フ次第デハアリマセヌ、全部ノ計畫ヲ立テマシテ……全部ノ擴張ノ計畫ニ對シテ恩賜金ガアッタト云フ次第デアリマス、故ニ四千四百萬圓ヲ要スル中ニ、恩賜ニ依ッテ二千四百萬圓ハ公債借入金ニ依ッテ此費用ヲ充タスコトガ出來ルノデアリマス、此四千四百萬圓ノ金ハドウ云フ割出シカト申セバ、既ニ説明モ致シタデアリマセウガ、三十何校増設擴張ヲ致スコトガ必要デアッタノデアリマス、ソレ等ニ對シマシテ恩賜ヲ拜シタト云フコトデアリマス、恩賜金ガアッタニ依ッテ或ル一二ノ學校ヲ増設イタシタ次第デハゴザイマセヌ

○江本翼君 私ハ政府ニ對シ一二ノ質問ヲ致サウト思ヒマス、第一ニ伺ヒタイノハ先程文部大臣ノ御説明ニ依リマシテモ、將又唯今ノ總理大臣ノ説明セラル、所ニ依リマシテモ、高等教育機關ノ増設ヲ聞召サレテ御下賜ガアッタノハ如何ニモ恐懼ニ堪ヘヌ次第デアリマスガ、此御下賜金ニ付テ、是ハ憲法上如何ナル效果ガアッタカト云フコトヲ申シマス、明ニ豫算ノ上ニ御下賜金ト云フモノヲ組入レラル、ト云フ當然國務ニ關スル所ノ結果ヲ來タシテ居ルノデ

アリマス、果シテ斯ノ如ク考ヘマシタナラバ、此有難キ思召ト云フコトガ國務ニ關スル陛下ノ御行動アルト、斯ウ論結シナクレバナラヌコトト思フノデアリマスガ、此御沙汰ニ對シテハ國務大臣ハ御責任ヲ御負ヒニナル、斯ウ云フコトニ心得テ宜イノデゴザイマセウカ、如何デゴザイマセウ、即チ國務大臣ノ輔弼ニ依ッテ此行爲ガアラセラレタト斯ウ承知シテ宜イノデゴザイマセウカト云フコトガ第一點デゴザイマス、ソレカラ第二點ハ本計畫ノ、即チ大正八年度ヨリ大正十三年度ニ互リマスル所ノ、此全計畫ト云フモノハ不可分ノモノデアルヤ否ヤ、若シ不可分ノモノデアルトスラバ、其理由如何ト云フ點ヲ承リタイノデアリマス、抑、此繼續費ノ制度ト云フモノハ甚ダ認メタル國ガ少イノデアリマス、殆ド例外的ニ認メラレテ居ルヤウデアリマスガ、我國ニ於キマシテモ憲法六十八條ニハ明ニ其例外的ノ方法デアルト云フコトヲ示シテ居ルノデアアル、特別ノ須要ニ因ッテ初メテ繼續費トシテ設定シ得ルモノデアルト定メテ居ルノデアアル、從ヒマシテ特別ノ理由ト云フモノガナイ限ハ、繼續費ト云フモノハ甚シク擴張スベキモノデナイ、斯ウ本員ハ信ズルノデアリマスルガ、本計畫ヲ見マスルト大正八年度ニ著手ニナッテ、而シテ九年、十年ニ終了スルモノニ付キマシテハ、繼續費トシテ要求セラル、ト云フコトハ、或ハ已ムヲ得ヌコトデアアルカモ知レナイ、併ナガラ九年度ニ著手セラル、モノガ數校アリ、十年度ニ著手セラル、モノガ數校アリ、十一年度ニ著手セラル、十三年度ニ終了スル所ノモノガ又數校アル、而シテ是等ノ著手セラル、所ノ數校ノ關係ト云フモノハ果シテ不可分デアアルドウカ、福島ニ商業學校ノ創設セラル、ト云フコトト、埼玉縣ニ高等學校ヲ創設セラルルト云フコトト何ノ關係ガアルカ、何ガ故ニ是ガ分割スルコトノ出來ナイ、一ノ計畫デアッテ若シ分割ノ出來ルモノデアラナラバ本年ハ八年以降三年間ノ繼續費ヲ出ス、來年ハ又九年度以降ノモノヲ出ス、順次其年ニ出ス所ノモノニ付テ要求セラレテ然ルベキモノト思ヒマスガ、此全計畫ガ絶對不可分ノモノデアアルヤ否ヤ、若シ不可分ノモノデアルトスラバ其理由如何、此二點ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今江本君ノ御質問デゴザイマスルガ、恩賜金ニ付テ是ガ全ク思召ニ出デタルコトニ致セ、内閣ヨリ上奏イタシタルコトニセヨ、一切ノ責任ハ内閣ニ於テ負フノデアリマス、而シテ此度ノ御下賜金ハ全ク思

召ヨリ出デタルモノデアリマスルガ、併ナガラ之ニ對スル輔弼ノ責任ニ於テハ御議論ノアリマシタ(聴取シ難シ)又繼續費ノコトデアリマスルガ、全部ノ計畫ヲ立テマシタ時ニハ、斯様ナル例ヲ以テ、手續ニ依ッテ協賛ヲ求ムルノデアリマス、是ハ數多ノ前例モアルコトデ、繼續費ハドノ繼續費ニ致シマシタモ一二切ッテ切ラレヌコトハアリマスマイケレドモ、計畫ヲ全部立テマシタキハ之ニ對スル繼續費ヲ求メルト云フコトハ當然ノコトデアリマス、故ニ是ダケノ學校ヲ必要ト致シ、其金額ノ必要ト云フコトヲ認メマシタ以上ニハ、數年ニ亙ル所ノ繼續費ヲ提出イタシマシテ其御協賛ヲ得テ、其年度毎ニ實行ヲ致スノデアアル、無論其年度年度ニ當リマシテ御承知ノ如ク、豫算ニハ其年々ノ豫算ニ計上イタシテ御協賛ヲ得ルノデアリマス、故ニ斯様ナ計畫ヲ立テマシタ時ニハ總額ニ於テ繼續ヲ求ムルハ前例竝ニ法律規則ノ關係ニ於テ更ニ差支ナイコトト存ジマスルノテゴザイマス

○山脇玄君 私ハ當局ニ種々伺ヒタイノデアリマス、唯今御説明ヲ伺ヒマスルト、多大ノ金額ヲ以テ高等教育ノ擴張ヲ御計リニナルト云フコトハ、國家社會ノ爲ニ誠ニ喜バシイノデゴザイマス、併ナガラ此中ニハ女子高等教育ノ新設或ハ昇格ナド云フコトハ更ニナイヤウニ見エマスルシ、又御説明ノ中ニモ一向ナイヤウデアリマス、申スマデモアリマセス、今日ノ社會ハ男子ばかりノ社會デアリマセス、男子ト女子ト相俟ッテ協力ヲシテ、國富ノ増進ヲ計リ、社會ノ進歩ヲ計リ、國力ノ充實ヲ計リ行カナケレバナラヌ世ノ中デアリマス、我國ニ於キマシテ第一ノ工業デアアル所ノ纖維工業ニナリマスルト云フト、女子ノ力ハ八割、紡績ニナリマスルト云フト英國デサヘ四割ニ止ッテ居リマスルモノガ、我國デハ九割ト云フ數ニ上ッテ居ルノデゴザイマス、女子ノ力ノ偉大ナルコトハ此一例ヲ以チマシテモ證スルニ足ルト考ヘマス、併シハ唯殖産ノ一方面ニ止リマスルガ、他方ニハ家庭ニ於テ子女ヲ教養スルコト、殊ニ人格養成ト云フ大任ニ當ッテ居リマス、社會ニ出マシテハ教育事業、電信、電話、銀行其他百般ノ事業ニ貢獻シテ居ルデアリマセスカ、世人ハ何時デモ萬事ノ基礎ハ教育ニ在ルト云フコトヲ唱ヘテ居リマス、ニ、文部當局ハ何故ニ女子ノ高等教育ノ爲ニ御計畫ニナラヌノデアリマセウカ、私共カラ見マスルト、女子ノ教育ヲ御忘ニナッタノデハナイカト疑ハレル次第デアリマス、ドウ云フ御趣意デアアルカ其點ヲ伺ヒタイ、今一ツハ仄ニ聞ク所ニ依リマス、京都帝國大學ノ文科ニ女子ノ入學志願者ガアリマシテ、總長ガ

之ヲ教授會ニ付シタ所ガ、教授會ハ即決スルコトガ出來ズ今尙ホ考慮中デアルト云フコトヲ聞キマス、如何デアリマセウ、既ニ東北大學デハ三名ノ理學士ヲ出シテ居ルデアリマセスカ、札幌ノ農學校ニハ一名ノ研究者ガ居ル、帝國大學デハ公開講演ヲ開ク度毎ニ多數ノ女子ガ聽講生トナッテ好成績ヲ擧ゲテ居ル實例モアルデアリマセスカ、然ルニ何ヲ苦シンデ京都ノ帝國大學ハ文科ノ入學志願ヲ許サナイカ、甚ダ奇異ノ感ヲ懷クノデアリマス、文部當局ハ是等ニ對シテ如何ノ考ヲ御持ニナッテ居ルノデアリマセウカ、其二點ヲ伺ヒタイノデアリマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 女子教育ノコトハ山脇サンモ御承知ノ通り近來大變發達シテ來マシテ、就中近年ノ發達ガ餘程著シイヤウニ思ヒマス、既ニ高等女學校、實踐女學校ノ如キモノハ二百何十ト云フ男子ノ中學校ニ、其中ニ男子ニ追付ク位ノ盛況デ非常ニ喜ンデ居リマス、ソレカラ此女子教育ヲ尙ホ高クスルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、臨時教育會議ノ答申ガアリマシタガ、段々高クシヤウト云フ方針ニハナッテ居リマスガ、差當リソナラ大學ヲ拵ヘルカドウカト云フマデニ至ッテ居リマセス、今ノ高等女學校ニ研究科ヲ拵ヘル專修科ヲ拵ヘルト云フ方針ニナッテ居リマシテ、時節ト共ニ進行スルト云フ方ノ主義ニナッテ居リマスカラ、先ヅサウ云フ程度ガドウダラウカト當局ハ今考ヘテ居リマス、ドウカシテ次第ニ向上スルコトヲ希望シテ居ル譯デアリマス、今回ノ計畫ニ男子ダケニシテ女子ガ這入ッテ居ナイノハドウカト云フコトハ、御尤ノ御不審デゴザイマスガ、今回ノハ單ニ此收容力ノ足ラナイ無理ノ出來テ居ル部分ニ向ッテノ缺陷ヲ矯正シタイ、マア言葉ヲ換ヘデ申シマス、競争試験ヲ成ルタケ避ケサシテ志望スル所ニ向ッテ青年ヲシテ其志ヲ達シサセタイト云フ方ヲ主眼ト致シマシタノデ、志望者ノ割合ニ少イ即チ百人ノ中四十カ五十カ七十カ取レルヤウナノハ餘リ手ヲ著ケマセスデシタ、非常ニ志望者ノ志願ニ對シテ收容力ノナイ部分ニ對シテ計畫ヲスル、是ダケニ止メタ譯デアリマス、サウ致シマスルト云フト、詰ル所今日ノ中學校、男子ノ中學校ノ卒業生ガヨリ以上高等教育ヲ受ケヤウト云フ部分ニ向ッテハ極メテ少イノデ私立ニシテモ殆ド半分位マデ行キマス、官立ニシテモ百分ノ二十ト云フヤウナコトデアリマスカラ、女子ノ方ハ非常ニ比例ガ宜シイ、ソレデ先ヅ男子ノ計畫ダケヲ此度ハ致シタヤウナ譯デアリマス、ソレカラ京都大學ニ

女子ノ入學志願者ガアッタト云フコトハ、先日私モ、マダ表向ニ何ハ來マセヌガ、新聞デ見マシタ、向ウデ相談シテ居ルサウデス、マダ本省ヘハ其模様ヲ知ラセテ參リマセヌ、併シ御話ノ通りニ東北大學ハ、先年以來既ニ數名ノ女子入學者ガアリマシテ、現ニ卒業シタ者モアツテ大變成績ガ好イト云フコトデ、外ニモボツボツ入レテ居リマスカラ、多分京都デモ入レルコトニスルダラウト思ヒマス、入レナイト云フコトニナリマスレバ、此方カラ相談シナケレバナラヌト思ヒマスガ、マダ報告ヲ得マセヌ、多分入レルコトニナルダラウト思ヒマス

○山脇玄君 モウ一ツ伺ッテ置キタイ、今日ノ所ハ男子ノ希望者ヲ入レルダケノ缺陷ヲ補フノデアルト云フ御趣意ハ分リマシタ、サウシマス今茲ニ女子ガ中學程度ノ學力ヲ有ツテ高等學校ニ這入リタイト云フ志願ヲ致シマスルト云フト、矢張り男子同様ニ試験ノ手續サヘ經レバ許スト云フ今日ノ當局大臣ノ御考デアリマスカ、ソレト同ジコトニ大學ヘ入學志願者ガアレバ、資格サヘアレバ許スト云フ當局大臣ノ思召デアルカ、其點ヲ伺ッテ置キマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 既ニ一番高イ大學ニ向ッテ志望者ヲ許シテソレノ卒業者モ出タ位デアリマス、高等ノ各種ノ專門學校ニ向ッテサウ云フ場合ガアリマシタ時ニハ、多分サウシナクチャナラヌト思ヒマスガ、今日マデ其場合ガ起リマセヌ、尙ホ御趣意ノコトハ能ク分リマシタカラ我々ノ方デモ詮議ヲシテ準備ヲ致スコトニ致シマス

○山脇玄君 餘リ諄イヤウデゴザイマスガモウ一ツ、希望ニナルカ知レマセヌガ、唯今文部大臣ノ仰セノコトハ能ク分リマシタ、併ナガラデス、ドウカ御詮議ニナリマシテ、愈々志願者ガアレバ許スト云フコトニナリマシタラ世上ニ御公表、公ニ御發表ニナルコトヲ希望シタイ、ト云フノハ唯今ノ所デモ折角自習ヲ致シマシテ試験準備ヲシテモ、或ハ許可ニナラヌカモ知レナイト云フ危險ガアルモノデアリマスカラ、甚ダ女子教育ノ進歩ヲ妨ゲテ居ルノデアリマス、ドウカ當局大臣モ許スベキデアルト云フ御考ノヤウデゴザイマスカラ、其御詮議ガアリマシタナラバ、願ハクハ多少ニ拘ラズ御公表、即チ公ニ御發表ヲ願ヒタイノデアリマス

○男爵石黒忠恵君 本員ハ此案ニ付キマシテハマダ全ク了解ヲ致シマセヌデゴザイマスルガ、議事ノ進行ノ爲ニ差控ヘマシテ委員會ニ於テ承ハリタイト

存ジマス、打切りマス

○阪本鈺之助君 石黒男爵ハ一時御打切ニナッタト云フコトデアリマスガ、私ハ補足的ニ一言ダケ伺ヒタイト思フノデアリマス、文相ノ御答ト首相ノ御答トハ、少シ閣議ノ模様ガ相違イタシテ居ルヤウデアリマスガ、暫ク首相ノ御答辯ヲ確實ナルモノト見マシテ、首相ノ御答辯ニ依リマス、既ニ計畫ヲ立テテ議會ニ提出スベク考慮シテ居ッタガ、何分財源ガ困難デ種々苦慮ヲ致シテ居ル中ニ、御下賜金ノ御沙汰ガアツテ拜受シタト云フヤウニ承知イタシマス、シマスルト既ニ閣議ニ於テ此案ヲ議會ニ提出スベキ考ハ決ッテ居ッタモノト見テ宜シイト思フノデス、財源ガ困難ナノニ苦シンデ居ッタト仰ッシヤイマスケレドモ、是モ既ニ閣議ガ議會ニ提出スベク決定セラレタトスレバ、先以テ公債若クハ借入金ヲ以テ四千五百何十萬圓支出スルモノト御覺悟ニナッテ居ッタラウト想像スルノデアリマスガ、折角一千万圓ノ御下賜ガアッタモノトスレバ、御下賜金ノコトデアリマスカラ、常識ヲ以テ考ヘレバ、國家ノ負擔スベキ四千五百萬圓ハ豫テ覺悟シタ公債、借入金ニ依ッテ支辨シテ、此一千万圓ハ實ニ有難キ思召デアルカラ、何カ永久ニ聖慮ヲ子孫ノ後マデ傳ヘ得ル所ノ、高等教育機關ノ擴張費タル範圍ヲ脱スルコトハ出來マセヌケレドモ、其範圍ニ於テセネバナラスコトハ澤山アルノデアリマス、現ニ先日豫算委員會ニ於テ、文部大臣ニ向ッテ本員ガ、何故七年制ノ高等學校ヲ御立テニナラヌカト云フコトヲ御尋イタシマシタ時ニ、經費ガ掛カルカラ先以テ三年制ノモノニシテタノデアルト云フコトデアアル、是等モ總テ此一千万圓ヲ御用ヒニナリマスレバ、七年制ノ高等學校ヲ造ルコトモ出來ルシ、或ハ大學ノ各學部ノ設備ノ不十分ノモノモアリマスカラ、ソレニ向ッテ用ヒテ、恩賜ノ金ニ依ッテ是ガ設備ヲ擴充スルト云フコトニシタナラバ、如何様ニモ此一千万圓ノ金ハ、永ク聖意ヲ感體スルコトガ出來ル事業ニ使フコトガ出來ルノデアリマスルニ拘ラズ、幸ニ一千万圓御下賜ニナッタカラ之ヲ四千万圓ノ内ニ加ヘテ、恰モ民間ノ人カ寄附デモ致シタカノ如クニ、政府ノ負擔スベキ支出ノ内ニ、何トナシニ收入シテ仕舞フト云フコトハ、ドウモ遺憾ノコトト考ヘマスガ、内閣ハ之ヲ洵ニ相當ナコトデアアル、他ノ事ニ使フモノデナイト云フ御意見デアッタノデアリマセウカ、此間ノ消息ヲ伺ッテ置キタイト思ヒマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 阪本君ニ御答ヲ致シマスガ、實ハ先般阪本君ノ御質問

ニ依ッテ、御質問以外ニモ涉ッテ詳シク頗未ヲ御答辯イタシタノデアリマスルガ、詳細ナルニトハ速記ニモ載ッテ居リマシタカラ、十分御了解ト思フノデアリマスルガ、唯今ノ御問モ實ハ其内ニ含蓄シテ居ッタノデアリマス、併シ重ネテ申スコトハ更ニ差支ゴザイマセスガ、計畫ヲ立テマシテ之ニ要スル所ノ財源ハ、今日ノ財政上如何トモ致方ガナイノデアリマスルカラシテ、公債、借入金ニ依ッテ支辨ト致シテアッタ、儲此公債、借入金ト申シマシタ所ガ數多ノ公債、借入金モアリマス、ナカ／＼是ハ容易ナコトトハ存ジマセス、併ナガラ臨時ノ費用デアリマスルカラ、其學校ガ出來タ以上ニ維持スル經常費ハ別ト致シマシテ、之ヲ創設スル擴張スルト云フ費用ダケハ、臨時ノ費用デアリマスルカラ、公債借入金モ數多アリマスルケレドモ、已ムヲ得ズ公債借入金ニ依ッテ支辨シヤウト云フ計畫ヲ立テタノデアリマス、此計畫ヲ立テ豫算等ヲ編成イタシマシテ、其手順ニ連ビツ、アッタノデアリマス、然ルニ此事上聞ニ達シテ御下賜金ガアリマシタカラ、ソレダケノ分ハ國家ガ負擔セズニ濟ムノデアリマス、而シテ其御沙汰ノコトハ昨年末ニ豫算内示會ノ丁度其少々前ニ御沙汰ヲ拜シマシタカラ、兎ニ角左様ナ御内沙汰ヲ承ッタト云フコトヲ、豫算内示會ニ於テ取敢ズ公表イタシタト云フヤウナ次第デアリマス、ソレカラ漸次手續等ヲ經マシテ、今回議會ニ提出スルコトニ相成ッタノデアリマス、而シテ其御下賜金ナルモノハ、尋常一樣ノ寄附ナドトハ政府ハ毛頭心得テ居リマセス、恰モ何カ寄附金ヲ募集シテ、之ニ依ッテ金ヲ得タヤウニ見テ居リハシナイカト云フ御質問デアリマスレバ、決シテ左様ナ考デハナイ、併シ一面ニ於テハ學生ノ年々入學スル途ハナイ、公私ノ學校ヲ通ジマシテ四五万ノ學生ガ方向ニ迷フノデアリマスカラ、之ヲ救済スルニハドウシテモ高等機關ヲ擴張シナケレバナラス、之ヲ擴張スルニハ財源ガ無イカラ公債、借入金ニ依ラナケレバナラス、斯様ナ狀態ニ在ッタ所ガ、難有キ思召ニ依ッテ一千万圓ノ御下賜ヲ拜シマシタカラ、是ダケハ確ニ國民ノ負擔ヲ減ジ、而シテ此學校ノ擴張ガ易タト出來ルノデアリマス、此恩惠ニ浴スル者ハ矢張り一般國民デアリマス、高等ノ教育ヲ受クル者ハ或ル種類ノ人ニ限ッテ居ルガ如ク論ズル人モアリマセスガ、決シテ左様デハアリマセス、初等教育ノ義務教育ニソ國民ガ是非ヤラスケレバナラスガ、其以上ハ是非ヤラナケレバナラスト云フ譯ノモノデハアリマセスケレドモ、併ナガラ國家ノ教育ハ高等教育ガ進歩イタサナケレバ發達シナイト存ジマス、而シテ此高等教育ニ這入ルモノハ、國民ノ如何ナル部

分ニ於テモ皆這入り得ルノデアリマス、又如何ナル部分ノ人モ今日ハ高等ノ學校ニ這入ルコトヲ希望シテ、高等教育ヲ受ケルコトガ出來ズシテ困難ヲシテ居ル、是ガ今回ノ計畫ニ依リ有難キ思召ニ依ッテ、是ガ安ラカニ此計畫ガ出來ルト云フコトハ、國民全般此恩惠ニ浴シテ、感泣ノ外ナカラウト存ジテ居ルノデ、決シテ政府ハ其下賜金ガアッタノヲ、一般寄附ナドノヤウニ心得マシテ、ソレダケハ樂ニナルカラト云ッテ、輕卒ニ取扱フナドト云フヤウナ考ハ政府ニハ毛頭ゴザイマセス

○淺田德則君 此日程第二ノ大正八年度歲入歲出總豫算追加案ノ審査期限、是ハ期限ヲ定メマセズシテ、審査結了次第ニ報告ヲスルト云フコトニセラレムコトヲ望ミマス

○男爵石黑忠恵君 賛成イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 淺田君ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第三、道路法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

○議長(公爵德川家達君) 日程第三、道路法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

道路法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正八年二月二十五日

衆議院議長 大岡育造

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

〔小字ハ衆議院ノ修正ハ同削除ノ符號ナリ〕

道路法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル認定ヲ爲シタモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲クルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場

二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識

三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場

四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ

本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁

其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕

ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラ

ス

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ五種トス

一 國道

二 府縣道

三 郡道

四 市道

五 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地

又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線

二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線

二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線

三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七 數郡市ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第十二條 郡道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ郡内ノモノニ就キ郡長之ヲ認定ス

一 郡役所所在地ヨリ隣接郡市役所所在地ニ達スル路線

二 郡役所所在地ヨリ郡内町村役場所在地ニ達スル路線

三 郡役所所在地ヨリ郡内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四 郡内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 郡内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 郡内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七 數町村ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線

ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼スル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼スル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル

橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得

國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

○主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他

第三十三條 主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ニ規定スルモノヲ除ク外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼スルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行為ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行為ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行

政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條ノ規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依ル立入り、使用、使役又ハ收用ニ因リ、損害ヲ受ケタル者ハ立入り、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者ニ對シ補償ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五章 監督及罰則

第五十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ

三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ

四 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ

五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト

三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト

六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト

九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他

命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第五十六條 私人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一年以下ノ懲役若ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得シテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタルトキ

二 許可ヲ得シテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ

四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タルトキ

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサルトキ

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササルトキ

第六章 訴願及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六

貴族院議事速記第十四號

大正八年三月一日

道路法案

第一讀會

二〇五

月内ニ、^{同條ノ規定スル期間}補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第七章 雜則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道及沖繩縣ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ沖繩縣ニ付テハ郡道ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス
一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件

二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辦シ得ル件

四 陸地測量標條例第二條

五 水路測量標條例第二條

六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

八 河川法第十條第二項第十一條及第三十二條

九 砂防法第八條及第十六條

十 私設鐵道法第四十二條

十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條

十二 電氣事業法第九條

十三 大正三年法律第三十七號

附則

第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス

一 明治五年第三百二十五號布告

二 明治六年第四百十六號布告

三 明治六年第四百十三號達

四 明治九年第六十號達

五 明治十八年第一號布達

六 明治二十年勅令第二十八號

第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 道路法ノ制定ハ三十年來ノ懸案デゴザイマシテ、最初明治二十一年ニ調査ヲセラレマシタ以來、或ハ地方官ノ意見ヲ徵シ、又土木會ニ諮問ニナリ、度、閣議モ決セラレマシタ、議會ニ向ッテモ二十九年ト三十二年ニ提出ニナッタノデアリマシタガ、何レモ其當時未議了ニ終リマシテ、遂ニ今日マデ其決定ヲ見ナイデ居ルヤウナ有様デアリマス、然ルニ今日ノ現

狀竝ニ將來ニ互ツテ考ヘマスルニ、最早今日ハ其制定ヲ必要トスル時ト考ヘマスノデアリマス、現在道路ニ關スル法律ハ、明治九年太政官達六號ト云フノゴザイマス、其外一二ノ單行法ガアリマスルノミデアリマシテ、其管理維持、若クハ費用ノ負擔、若クハ監督ニ關スル規定等モ甚ダ十分デアリマセヌ、ソレ故ニドウゾ是等ノ十分ナラザル規定ヲ補ヒマシテ、此際ソレト相當ノ條規ヲ設ケタイ考デゴザイマス、而シテ此法案ニ付キマシテ衆議院ニ於テ二三修正ヲ致シマシタ箇條ガゴザイマスガ、何レモ相當ナルコトト考ヘマシタノデ、修正ニハ同意ヲ致シタ次第デゴザイマス、前申上ゲル如ク長イ懸案デゴザイマスルシ、其間種々調査研究モセラレテ今日參ッタコトデゴザイマスノデ、何卒御協賛、御審議ヲ願ヒタウゴザイマス

○阪本鈺之助君 本案ノ衆議院ノ修正ヲ見マスルト、此最モ重モナルモノハ第十一條、第十二條ノ下ヘ持ッテ行キマシテ「地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線」、此一號ヲ加ヘルト云フコトニナッテ居リマス、唯今承リマシスルト、政府ハ御同意ヲナサレタト云フコトデアリマスガ、從來假定府縣道ト申シマシテ、此修正ノヤウナ路線ヲ町村ノ管理カラ府縣ノ管理ニ移スト云フコトニ付キマシテハ、地方官ヤ議員有志ト云フヤウナ者ハ大ニ苦心シタモノデアアルノデアリマス、動モスレバ是ガ政黨操縦ノ用ニモナリ、動モスレバ議員選舉ノ餌トモナリマス、相應ニ弊害ガ伴ヒマシテ甚ダ宜クナイコトデアルト感ジテ居ルノデアリマス、此度ノ道路法案ハ兎ニ角國道、府縣道、郡道等ノ資格ヲ明瞭ニ規定セラレマシテ、是マデノ弊害ヲ幾分ナリトモ除却スルコトヲ得ルト認メテ居リマシタニ抱ラズ、又斯ナ修正ガ這入リマシテ「地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線」ト云フヤウナ、見様ニ依リマシテハドウデモナル曖昧ナモノデアアルノデアリマス、是ガ這入リマスルト、再ビ前日ノ如ク種々ナ面倒ガ起リマシテ、而モ之ガ爲ニ路線ガ非常ニ殖エルノデアリマス、路線ガ殖エマシテ、府縣費ガ増加スルト云フコトハ掩フベカラザル事實デアアルト私ハ思フノデアリマス、政府ガ之ニ拘ラズ、御同意ヲナサレタト云フコトハドウ云フ譯デアリマセウカ、甚ダ遺憾ニ存ジマスルガ、此修正ノ成立チ及政府ガ之ニ御同意ナサレタト云フ理由ヲ承リタイノデアリマス、又郡道ト云フモノヲ此法案ガ認メルコトニナッタノデアリマスルガ、是マデ郡ガ府縣ト町村トノ間ニ介在シテ、唯僅ニ里道ヲ假ニ郡道ナトド稱シテ管理シテ居ッタノデアリマスガ、今後ハ此法案ガ成立チ

マスレバ、郡ト云フモノモ一ノ獨立ノ主體トナリマシテ、第十二條ニ掲ゲラレテ居ル所ノ郡道ヲ認定シ、又ハ管理スルコトニナリマスノデ、郡ノ自治體ノ世帯ハ餘ホド大キナルノデアリマス、是マデ府縣ガ各郡ニ土木出張所トカ、駐在所トカ云フヤウナモノヲ設ケマシテ、ソレニ府縣吏員ヲ駐在セシメテ、事ヲ辨ジテ居ッタノデアリマスルガ、郡ニモ郡道ト云フモノガ出テ來テ、世帯ガ大キクナッテ來マスレバ、是ニモ矢張り郡ノ土木吏員ト云フモノヲ作り、或ハ郡内ニ在ル所ノ府縣管理ノ道路ト、郡ノ管理ノ道路ト、別々ニ同ジ所ニ在ル道路ヲ、資格ヲ異ニスル爲ニ兩方カラ役人ガ出テ、別々ニ仕事ヲスルト云フコトニナリマシテ、甚ダ不經濟デアアルノミナラズ、實ハ郡ト云フモノハ自ラ郡稅ト云フモノヲ取ル資格ハナイ、町村ニ分付ヲシテ今日ノ郡費ヲ取ッテ居ル、今日ノ現狀ハサウナッテ居リマス、斯ノ如キ畸形ノ法人デアアル、即チ片輪ノ法人デアアル、斯ノ如キ郡ニ斯ノ如キ機能ヲ有タセルト云フコトハ大ニ考フベキコトデナイカト考ヘマス、之ニ付テ政府ハ如何ニ御考ニナッタノデアリマセウカ、是モ併セテ御聞カセテ願ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 第一ノ御尋ハ衆議院ノ修正ノ通りニナレバ地方ノ情實ニ依ッテ安ニ道路ヲ開發スルト云フ虞ハナイカト云フ御尋デアリマス、道路ノ認定ヲ致シマスルニ付テハソレト監督ノ規定ヲ設ケテゴザイマスカラ、監督ノ作用ニ依ッテ餘リ甚シイモノハ制限ガ出來ルト云フ考デ居リマス、又且今ノ御尋ノ修正ノ個條ハ前各號ニ該當スルモノト云フ言葉ガゴザイマスカラ、要スル所政府ノ原案ト實質ニ於テハ異ナル所ハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ第二ノ御尋ノ郡道ノコトデゴザイマスルガ、今日ノ實況ニ於テハ郡ニ於テ自ラ經營シテ居ルモノモアリ、若クハ經營シテ居ラザルモノモアリマス、今度ノ法案ニ依ッテ俄ニ郡ノ負擔ニ激變ヲ來タスヤウナコトハ避ケタイト考ヘテ居リマス、併ナガラ大體ニ於キ茲ニ郡道ガ出來ルコトハ明デゴザイマスカラ、ソレダケハ自ラ郡ノ負擔ハ殖エルノデアリマスケレドモ、其點ニ於テハ餘リ負擔ニ堪ヘナイト云フコトハナカラウト考ヘテ居リマス、第二ノ御質問ハ……サウ云フ風デ宜シウゴザイマスカ、取違ヘテ居リマスカ、是ハ御伺イタシマス

○阪本鈺之助君 チョット……第一ノ御答ニ對シテ少シ疑ガ起リマシタカラ御尋イタシタイト思ヒマスガ、本員ハデス、本員ノ見マスル所デハ唯今大臣ノ

御答トハ違ヒマスノデ、將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線ト云フコトデアリマス、現在デハナイ、地方ノ開發ニ依ッテ將來前各號ノ一ニ該當スル道路ト云フノデアリマス、ソナコトヲ今カラ府縣道ニシテ置カナイデモ宜イ、郡道ナリ町村道ナリニシテ置イテ、愈々必要ノアツタ時ニ法律ニ依ッテ之ヲ上グレバ宜シイ、是ハ府縣道ニモ郡道ニモ這入ッテ居リマスガ、町村道ノ或ヤツヲ將來郡道トナルベキ資格ノアルモノハ、之ニ入レルト云フノデ皆一階ヅ、上ゲヤウト云フノデアリマスガ、是ガ頗ル弊害ガアルノデアリマス、ソコニ町村ナリ郡ナリノ負擔ヲ免ジテ府縣ヘ持ッテ行ク、府縣ヘ持ッテ行ケバ自ラ道モ宜シクナルシ金モ要ラナイ、地方ノコトハ能ク御承知デアリマセウガ、非常ニ運動ガ烈シイ、此間ニ色々弊害ガ用ヒラレルノデアリマス、即チ此弊害ヲ釀スベキ箇條ヲ一箇條入レタト本員ハ認メルノデゴザイマスガ、何故ニ將來ノコトヲ此ニ入レテアルノデアリマスカ、其事ガ到達シタ時ニ入レバ宜シイ、將來該當スベキ道路、將來ト云フモノヲ現在ノモノト同ジヤウニ扱ハナケレバナラスト云フコトハ、ドウシテモ理解ハ出來マセヌガ、ソレハドウ云フコトデアルカ、何故ニ之ヲ必要ト衆議院ハシタノデアリマスカ、又政府ハ何故ニ之ニ御同意ナサレタカト云フコトヲ承リタイ、第二ハ經費ノコトモアリマスガ、強チ經費バカリヲ申スノデハゴザイマセヌ、重複スルノデアリマス、府縣ノ吏員ガ幸ニ郡ニ出張所ナドガ出來テ居ルノデアリマスカラ、ソレガヤリマスレバ兼ネテ出來ルノデアリマス、又小サイ所ナラバ町村デモ出來ルノデアリマス、然ルニ郡道ト云フモノヲ公然ト認メラレテ郡役所デ之ヲスルト云フコトトナラバ、小サイナガラモ郡役所ニ相當ノ機關ヲ造ラナケレバナラス、是ガ又相當ニ費用ガ無駄ナコトデアルト思ッテ居ルニ拘ラズ、是非郡道ト云フモノヲ認メネバナラスト云フノハドウ云フコトデアルカ、本員ノ考デハ府縣道市町村道デ澤山デアラウト思ヒマス、上ノモノハ府縣道トシテ、又法律ノ定メヤウニ依ッテハ、府縣道ト云フ名ヲ附ケナイデ府縣知事ガ管理シテ修理保存スルト云フコトニ規定シテモ宜シイ、兎ニ角郡ノヤウナ畸形ノ法人ニ、他ノ完全ナル法人、府縣トカ市町村トカ云フ完全ナル法人ト同ジヤウナ仕事ヲサセル法律ヲ作ルト云フコトハ、洵ニ詰ラスコトデアルト思フノデアリマス、是ハ如何デアリマスカ、何故郡道ヲ置カネバナラスト云フ理由ハ何處ニ在ルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 第一ノ御尋ノニトハ「地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スベキ路線」現在ノ所デハ政府ノ原案ニアリマシタヤウナ箇條ニハ嵌ラナイガ、併シ今日其道ヲ拓ク必要ガ産業上ナリ地方ノ開發上カラ見テアルト、開イテ置ケハ竟ニハ前各號ノ一ニ該當スルヤウナ線路ニナルト云フ見込ノモノハ、之ヲ開クト云フコトハ、地方ノ爲ニ私ハ宜シイコトト考ヘテ居リマス、御心配ニナルノハソレガ爲ニ弊害ガ起リハセヌカト云フ御心配デアラウト思ヒマス、或ハサウ云フコトモアルカモ知リマセヌガ、併ナガラソレニハ監督ノ規定モアルノデアリマスカラ、私トシテハ差支ノ無イ修正箇條デアルト考ヘルノデアリマス、第二ノ御尋ノコトハ或ルホド今マデ郡道ヲ經營シテ居ラス所ニ、此法律ノ結果、郡道ヲ經營イタスヤウニナリマスレバ、府縣ノ土木吏員デ濟マシテ居ッタモノヲ更ニ郡ニ吏員ヲ置カナケレバナナイト云フコトハ、是ハ當然ノ結果デアリマスガ、ソレガ爲ニ殊更ニ地方ノ負擔ヲ過重スルト云フコトハ、ナカラウト思ヒマス、固ヨリ御尋ノ如ク幾分力重クナルコトニナリマスカラ、ソレダケハ大體ノ上カラ見テ不經濟タルコトハ免レヌト云フコトハ、私モ左様ニ考ヘマス、併ナガラ大體ニ於テ此法ヲ布イテソレハ地方ノ自治體ニ仕事ヲ委セルト云フコトニナッタ以上ハ致方ガナイト考ヘマス、元來イツゾヤ御尋ニモアリマシタ如ク、郡ナル自治體ガ存在セヌコトニ致シマスレバ、是ハ論ノ無イ話デアリマスケレドモ、今日郡ノ自治體ヲ認メテ居ル以上、多少ノ重複スルヤウナコトニナリマシテモ、大體上カラ已ムヲ得ヌ事柄ト考ヘマス

○高崎親章君 本案ハ先刻主務大臣ヨリ御説明モセラレマシタル通り、十數年來ノ懸案デアリマシテ、本會ニ提出セラレタノハ既ニ遲イト申サナケレバナリマセヌ、併ナガラ遲イナガラモ玆ニ提案セラレタト云フコトハ、洵ニ歡迎スル所デアリマスガ故ニ、敢テ異議ヲ挾ム點ハナカラウトハ存ジマスガ、二三不明ナ點ガアリマスルデ、當局ニ質問イタシタイト考ヘマス、本案ニ道路ノ資格ヲ定メラレマシテ、國道、府縣道、市道、郡道、町村道ト斯ウ五階級ニ分タレテアリマスガ、其第一ノ國道、此國道モ其經費ハ時ニ修繕ノ負擔ハ管理者ニ於テ之ヲ負擔スルト云フコトニナッテ居リマスガ、既ニ國道ト稱シテ廣ク府縣ヲ通ジ國民一般ノ利便トナルベキ道路デアル以上ハ、其費用ノ負擔ヲ一地方ニ負擔セシムルト云フコトハ如何ナルモノデアルカ、勿論現行ニ於テ國道ト雖地方ノ負擔ニナッテ居リマスル慣例デアリマスルナレドモ、此

道路法案ヲ定メラレ具權限ヲ明ニセラル、以上ハ、國道ハ國費ヲ以テ支辨スルコト云フコトガ當然ノ理由デハナイカ、然ルヲ尙ホ從前ノ慣例ニ依ッテ地方ノ負擔トスルト云フコトハ如何ナル理由デアルカ、此理由ヲ伺ヒタイノガ第一、第二ニハ國道ニシテ國庫ノ支辨ニ屬セザルモノ、府縣費ヲ以テ負擔スルコトガ出來ル譯デアリマスルナラバ、府縣道ノ經費モ縣費以下ニ負擔セシムルト云フコトモアツテ然ルベキコトト考ヘマスガ、ソレ等ノ規定ガ本案ニ見エテ居リマセヌ、ソレハ如何ナル理由デアルカ、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラ第三ニ國庫ガ府縣道以下ニ補助スルト云フコトヲ本案第三十五條ニ規定サレテアリマセヌガ、府縣ガ郡道以下ニ補助ヲ與ヘルト云フコトハ規定ガゴザイマセヌ、是ハ規定ガナクトモ從前ノ慣例ニ依ッテ補助スルト云フコトハ、道路法ニ因ッテ差支ナイト云フ御見込デアリマスカドウカ、是ガ第三ノ御尋、第四ニ御尋イタシタイノハ、從前ノ道路法ニ於キマシテモ矢張り國道、府縣道或ハ補助道路ト云フ色々名ガアリマスルガ、其國道縣道ナルモノニ付テハ、道幅ニ規定ガアツタ筈デアリマス、今般ハ此法案ニ其規定ヲ定メテアリマセヌ、是ハ或ハ本案三十一條ニ道路ノ構造ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムト云フコトガアリマスルカラ、或ハ命令ノ中ニ其規定ヲサル、ト云フ御見込カハ存ジマセヌガ、此道幅ノ規定ハ全然定メラレナイ譯デアリマス、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラ第五ニ御尋シタイノハ過日衆議院ニ於テ道路ハ國ノ營造物ト云フ問題ニ付テ内務大臣ノ御説明ガ明瞭ヲ缺イテ居ルヤウニ思ヒマス、此道路ノ國ノ營造物ト云フ事柄ニ付テハ最モ大切ナル問題デゴザイマシテ、此資格ガ明ニ定リマセヌト、行政上ノ處分ニ於テ甚ダ混雜ヲ來タスノデアリマス、然ルニ衆議院ニ於ケル内務大臣ノ御説明ニ於テハ、從來ノ例ニ依ッテ斯ク定メタガ、尙ホ此問題ニ付テ詳シキ説明ヲ要スルナラバ、法制局長官デモ連レテ來テ説明サセマセウト云フ御言葉ガアツテ、其後法制局長官ナドノ説明モ一向伺ハナイノデゴザイマセヌガ、是ハ當局ノ責任アル御辯明ヲ要スルコトガ最モ必要デアルト思ヒマス、之ヲ明ニ御説明ヲ願ヒタイ、マダ外ニモゴザイマセヌガ、先ヅ是ダケヲ御尋イタシマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答イタシマス、第一ハ既ニ國道ト名ノアル以上ハ總テ國費ニシタラドウカト云フ、斯ウ云フ御質問ト心得マスガ、此案ニ於テハ此國道ハ全部國費ヲ以テ支辨スルコトニ致シテアリマスルガ、大體

是マデノ慣例ヲ襲フ積リデゴザイマス、其方ガ今日ノ實際ニ適當シテ居ルト考ヘマシテ、是ハ變更イタサスコトニ致シマシタ、縣道以外、郡ナリ、若クハ市町村道ノ負擔デ以テ開鑿ノ出來ルヤウニシタラドウカ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、是等ハ總テ此案ニ於テハ從來ノ例ニ依ルコトニ是亦イタシテゴザイマス、第三ハ三十五條ノ御尋デアツタカト思ヒマスガ、之ニハ「特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ」即チ國庫ヨリ特別ノ事情ノアル場合ハ補助ヲスル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ其次ニ道路ノ道幅ヤナドハ如何ニスルカ、是ハ命令ヲ以テ定メル積リデゴザイマス、第五ニ國ノ營造物ト云フコトニ付テノ御尋デアリマシタガ、大體此案ハ總テ道路ハ國ノ營造物ナリト云フ考ヲ以テ制定イタシタノデアリマス、併シ國ノ營造物ト云フコトニ付テハ、色々學者ノ間ニモ議論ガアルヤウニ聞イテ居リマスカラ、ソレデ衆議院ニ於ケル答辯ハ今御尋ノ如ク申シタノデゴザイマス、此中ニハ其主義ヲ以テ規定シテ居リマス、何等國ノ營造物ト云フ文字ヲ用ヒタ次第デモ何デモアリマセヌ、其邊ノ議論ハドウデモ宜カラウト思ウテ返事ヲ致シタ次第デ、但シ主義ハ右様ナ考ヲ以テ此法案ヲ作ッテゴザイマス

○高崎親章君 唯今ノ御答ノ中ニ第三ノ御答ハ私ノ御尋シマシタ目的ニ外レテ居リマス、第三ニ御尋ヲ致シマシタノハ、國庫ガ府縣以下ノ、府縣道以下ニ補助スルト云フコトハ法案ニ規定ハアルガ、府縣ガ郡道以下ニ補助スルト云フコトノ規定ガナイ、是ハ現ニ今府縣ニ行ハレテ居ル事柄デアリマシテ、縣費ヲ以テ市町村ニ向ッテ補助ヲスルト云フコトハ幾ラモアルコトデアリマス、然ルニ其規定ハ少シモ現レテ居リマセヌ、是ハ禁ゼラレタ譯デアルカ、法案ニ規定ガナクトモ一向差支ナイト云フ見込デアアルカ、斯様ニ御尋ヲ致シタノデアリマス、ソレカラ序ニ伺ヒマスルノハ、唯今ノ御説明ノ中ニ國道ニシテ全部國庫ノ負擔ニナルベキモノノアルト云フコトヲ言ハレマシタガ、法案ノ中ニ左様ナコトハ見エマセヌ、何レモ補助ニナツテ居リマス、其補助ヲ全部總テ國庫ガスル積リデアリマス、ドウデアリマス、此ニツツ伺ヒマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 唯今ノ第二問ノコトハ三十三條ニ「主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス」トゴザイマス、ソレヲ申上ゲタ次第デゴザイマス、ソレカラ府縣ナリ、郡ナリカラソレ以下

ノ團體ニ向ッテ補助イタシマスルコトハ是マデ通りデ變更ヲ加ヘナイ積リデアリマス

○高崎親章君 第一ノ御答ヲ見マスルト、此新築、改築、是ハ此法案ニ規定シテアルノハ新築改築ニ限ラレテ居リマス、維持修繕費ト云フヤウナモノガナクレバナラヌ筈デ、私ノ御尋スル所ハ常ノ經費ト云フコトヲ申スノデアリマス、併シ是ハモウ別ニ重ネテ御尋ハ致シマセヌ、尙ホ外ノ問題ニ付テ御尋イタシタイノハ、本案第六條ニ「道路ヲ構成スル敷地」トアリマス、此敷地ト云フコトハ唯路面ヲ申スノデアルカ、地盤ノ底マデ指シテアリマスノカ、ソレモ先刻ノ國ノ營造物ト云フ問題ニ大ニ關係ヲ有ッテ居リマスガ、是ノドウ解釋イタセバ宜シイノデアルカ、ソレカラ次ニ第八條ノ國道ヨリ町村道ニ至ルマデ正シク、五階級ニ分タレマシタガ、現在ノ道路ハ國道ト云ヒ、府縣道ト云ヒ、或ハ町村道トモ申シ、且ツ里道トモ申シテ居リマス、ソレデ今般明ニ第八條ニ斯ノ通り名稱ヲ定メラレタ以上ハ、此法案實施ノ場合ニ於テハ、ソレノ管理者ガ此現在ノ道路ニ向ッテ其道路ノ資格ヲ認定スベキカ、此道路法案實施ノ場合ニ於テ悉ク皆現在ノ道路ニ向ッテ其資格ヲ定メラレル譯ニナリマスノデアリマスルカ、ソレヲ伺ヒタイ、ソレカラ第十一條、第十二條、之ニ「鐵道停車場」ト云フコトガアリマス、電車ノ停車場ト云フコトハ如何デアリマスルガ、段々電車ト云フモノハ市内バカリデナク郡ノ方ニモ現在モアリ將來モ敷設セラレル、鐵道停車場ヨリ寧ロ必要ナル電車停車場ノ必要ガ生ジテ來ルト思ヒマス、此電車停車場ハ左程ニ見ラレナイノデアリマスカ、或ハ先刻阪本君ノ質問ガアリマシタ十一條、十二條ノ衆議院ガ追加シタ此箇條ニ依ッテ、是等ハ地方開發ノ爲ニ必要ト云フ文字ノ中ニ含マセテアルノデアリマスカ、先刻内務大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマス、阪本君ノ御尋ニ對シテ甚ダ疑惑ヲ生ズルノデアリマス、御答辯ノ趣意ニ依リマスルト、此衆議院ガ追加シタノハ何等效用ガナイヤウデアリマス、即チ内務大臣ノ御答ハ「前各號ニ該當スルモノ」ト云フコトガ書イテアルカラ宜イト云フコトヲ言ハレテ居ル、前各號ニ該當スルモノノデアアルナラバ、既往將來ヲ問ハズ、後トカラ生ジタモノデモ何モ此ニ新ニ書イテ置カナクテモ、即チ前各號ニ書イテアル鐵道停車場トデアルカ、其他港津デアルトカ云フヤウナ必要ナコトガ生ジタナラバ、其時ニ之ヲ認定スレバ宜イノデアリマス、何モ追加ノ必要ハナイノデアリマス、是

ハドウ云フ御解釋ニナッテ居リマスカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ序ニ伺ヒマスノハ第十五條ニ町村長ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ、他ノ町村ニ向ッテ協議ヲスル、意見ヲ聽クト云フコトガアリマスガ、若シ其意見ヲ聽イテ同意ヲ得ナカタ時ニハ、到頭イケンイノデアリマスカ、又見解ガ合ハナイデ争ノ場合ニナッタ時ニハ縣知事ト云フモノカ、内務大臣ト云フモノカガ、之ヲ裁斷スルノデアルカ、是ハ何等力規定ハアリマスルカ、是ハサウ云フ衝突ヲ起シタ場合ニハ如何ナル處置ヲ取ラレル積リデアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君)此第六條ノ「道路ヲ構成スル敷地」ハ、詰リ道路ニ必要ナダケノ意味デアリマスカラ、路面竝ニ幾ラカソレニ必要ナダケノモノハ之ニ含シテ居ルト、斯ウ御解釋ヲ下サイ、詳シイコトハ却ッテ私ヨリ政府委員ノ方ガ委員會ニ於テ詳シク御説明ヲ申シマス、第八條、此國道、府縣道等ヲ認定スルニハ、此法實施ノ際ニ致スノデアルカト云フ御尋デアリマスガ、此法實施ノ際ニ認定イタス積リデアリマス、第十一條、電車ノ停車場ニ達スルト云フヤウナコトガナイト云フ御尋ノヤウデシタガ、是ハ必要ハアルマイト思ヒマシテ、尤モ極メテ必要ナル地點ガアリマスレバ大概ハ此ニ列記シテアル箇條ニ這入ラウト思ヒマスガ、若シ這入ラナケレバ臨時認定イタスモ差支ナカラウト考ヘマス、明記シテ置ク必要ハナイト思フノデス、次ニハ先キ阪本君ノ御質問ニナリマシタ箇條デアリマスガ、例ヘバ樞要ノ地ト申シマシテモ現在デハ全ク未開ノ土地デアリマスレバ、ソコニ向ッテ樞要ノ土地トハ申サスノデアリマス、併シ將來其邊ニ道路ヲ開イテ置ケバ餘程重要ナ土地ニナルト云フ見込ノアル時ニハ、此修正シタ箇條ニ依ッテ働クノニ都合ガ好カラウト思ヒマス、ソレカラ第十五條デ町村ノ意見ヲ異ニシタ場合ハ監督ノ働キニ依ッテ、何レガ是ナリト云フコトニ決定ヲ致シテ途ハ付ク積リデアリマス

○矢口長右衛門君 本員ノ質問イタシタイ所ハ、此第十條竝ニ第十一條デアリマス、又第十一條ニ於テ「府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス」トアリマス、是ハ何等諮問モセズ、何レベモ相談ヲセズシテ國務大臣ガ國道ヲ決定シ、府縣知事ハ府縣道ヲ決定スルト云フ意思デゴザイマセウカ、既ニ御承知デゴザイマセウガ、府縣ノ如キハ一等、二等ト云フコトヲ決スルニハ府縣會ノ協賛ヲ經テ居リマスガ、是等ノ法案ニ付キマシ

テハ何等諮問モセズ、大臣若クハ知事道路ヲ決定スルト云フコトデゴザイ
マスカ、チヨット其事ヲ御質問イタシマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 唯今御尋ノコトハ今日ノ實際ニ於キマシテハ、
地方ニ於テハ或ハ地方議會ニ諮問スルシ、又諮問ヲセザル所モアリマス、
此點ニ付テ衆議院ニ於キマシテハ、成ルベク地方議會ニ諮問スルヤウニシ
テ貫ヒタイト云フ希望ガアリマシタ、差支ナイコトト考ヘマシタカラ、其希
望ヲ容レルコトニ返事ヲ致シテ置キマシタ

○高崎親章君 終ニモウ一件必要ナルコトヲ御尋イタシタイ、第三十三條ニ
衆議院ガ修正ヲ加ヘテ「主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道」ト云フ文字ヲ挿入
シテ居リマス、是ハ政府ハ御同意ニナツテ居リマスガ、「主トシテ軍事ノ目的ヲ
有スル國道」トアル以上ハ素ヨリ主務大臣ノ指定ニ屬シナケレバナラヌ筈デ
アリマス、主務大臣ガ指定セラレル以上ハ何等特ニ「軍事ノ目的ヲ有スル國
道」云々ト云フ文字ヲ此ニ挿入シナクトモ、矢張り原案ノ「主務大臣ノ指定ス
ル國道」ノ新設又ハ改築」ト云フコトデ事足ルノデアリマス、之ヲ故ラニ此文字
ヲ挿入シタ所以ハ、或ハ新築若クハ改築ノ外ニ、平素ノ維持修繕費マデモ國
庫ガ負擔スルト云フ目的ヲ以テ此修正ヲ加ヘタカト思ヒマス、果シテサウデ
アルナラバ私ノ見ル所デハ「軍事ノ目的ヲ有スル國道」其ノ他主務大臣」ト書イ
テハ、其平素ノ維持修繕費ハ是ニ這入リマセヌ、是ハ如何ナル御解釋デ衆議
院ノ修正ニ御同意ニナツタノデアリマス、之ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 衆議院ノ修正通リニナリマスレバ、「主トシテ軍
事ノ目的ヲ有スル國道」ト云フノハ、殊更主務大臣ノ指定ヲ待ツマデモナク、
明ニナツタ次第デアリマス、左様ニナリマシテセ別ニ差支ナイ事柄デゴザイ
マスカラ、是ハ修正ニ同意ヲ致シタノデアリマス、修正ノ趣意ハ主トシテ其
處ニゴザイマス、此外ノ意味ハゴザイマセヌ

○湯淺倉平君 本員ハ此法案ニ依リマシテ、初メテ郡道ナルモノガ國ノ法規
ノ上ニ公認セラレルト云フコトニナリマスルニ付キマシテ、曾テ我が政府ニ
聲明シテ居リマシタ所ノ郡制廢止ト云フ問題トノ關係ヲ伺ヒタイノデアリマ
ス、内務大臣ノ御説明ニモアリマシタ通り、明治九年太政官達ノ第六十號ガ
我國ノ道路ニ關スル法令ノ根本ヲ爲シテ居ルモノデアリマスルガ、其法規及

其他ノ道路ニ關スル法令ノ中ニハ、郡道ト云フモノハ今日マデ認メラレテ居
ラナイノデアリマス、然ルニ今回御提出ニナリマシタル法案ニ依リマス、ト云
フト、郡道ナルモノガ第八條ニ於テ認メラレタ、サウシテ此郡道ニ當然編入
セラルベキ資格ノ規定ガ十二條ニ認メテアリマス、第三十三條ニ至リマシテ、
是ガ維持負擔ヲ郡ナル公共團體ニ命ズルト云フコトニナツテ居リマス、其結果
ト致シマシテ、郡制ト云フモノガ此法律ヲ實行スルニ付キマシテハ、郡制ヲ
存置スルト云フコトガ第一ノ必要條件デアルト考ヘマス、ノミナラズ此法案
實施ノ曉ニハ先刻阪本君カラモ述べラレマシタ通り、郡ナル公共團體ガ發達ヲ
來タスト云フコトハ必然ノ結果ト考ヘル、果シテサウデアルト致シマスルナ
ラバ、此法案ノ實施ト云フコトニ依ッテ郡制存廢問題ト云フコトニ付テハ、是
デ安定ヲ見ルモノト了承イタシテ差支ナイモノデゴザイマセウカ、政府ノ御
考ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 御答イタシマスガ、郡道ナル名稱ハ成ル程今迄
ハ無カッタカト記憶イタシマスガ、併シ事實ハ郡道ナルモノハ湯淺君モ御承知
デゴザイマス、今日地方ノ實況ニ於テ郡ガ自ラ郡道ヲ經營シテ居ルモノト、經
營シテ居ラナイモノト兩様ゴザイマス、此法案ヲ制定スルニ方リマシテハ、
右様ナ地方ノ實況デゴザイマスルカラ、全ク事實ニ於ケル所ノ郡道ヲ認メナ
イデ定メルヨリハ、郡道ナルモノヲ茲ニ認メタ方ガ、事實適當デアルト考ヘ
タ次第デアリマス、サウナレバ即チ御尋ノ如ク縣制ニ對シテ前ニ私共郡制廢
止ノ意見ヲ持ッテ居ッタコトガアルカラ、ソレハドウナルカト云フ畢竟御尋ト
思ヒマス、兎モ角此法案ヲ作ルニ方リ、今日ニ於テ郡ナルモノハ存在シテ居
ルノデアリマス、此實況ニ付テ郡ヲ認メテ郡道ヲ置ク方ガ宜イト云フ考デヤ
ツタノデアリマス、然ラバ郡制ハ廢止ノ意見ハ捨テカト御尋カモ知レマセヌガ
郡制ハ廢止シタ方ガ宜シイト云フ考ハ今ニ於テモ持ッテ居リマス、併ナガラ其
意見ヲ持ッテ居ルカラ茲ニ郡制廢止法案ヲ提出スルヤ否ヤト云フコトハ是ハ
別ナ問題デアリマス、左様ニ御答スレバ多少郡制ノ前途ニ對スル不安ノ念ヲ
懷クカドウカト云フ御尋ガ又重ネテ起リマセウガ、多少サウ云フ念ヲ起サレ
テ私ノ腹カラ申セバ致方ガゴザイマセヌ、併シ現在ノ制度カラ申セバ郡制廢
止案ナルモノガ茲ニ提出セラレザル以上ハ、郡制ハ其儘存續シテ居ルノデア
リマス

○湯淺倉平君 唯今ノ御答辯ヲ伺ヒマスルト云フト郡制廢止ト云フコトニ付テハ、政府ハ郡制廢止ノ方ガ宜シイト云フ考ヲ持ッテ居ルカ、之ヲ實行スルカ否ヤト云フコトハ答辯ヲ致シ兼ネルト云フヤウナ御答デアッタヤウニ伺ヒマスガ、本年道路法案ノ御提出ニ依ッテ、曾テ法ノ上ニ無カリシ所ノ郡道ナルモノヲ、郡ナル公共團體ノ維持負擔スルコトニナリマシテ、澤山ノ郡道ガ出來ルト云フニトハ、是ハ一點疑ノ無イコトト考ヘマス、唯今内務大臣ノ御答ニ依リマス、郡道ナルモノハ現在ニ於テモ事實存シテ居ルト云フコトデアリマシタガ、成ル程事實郡費支辨ノ里道或ハ郡道ト唱ヘルモノガ、僅ニ今日二百三十何郡、其延長六千里バカリノモノガ存在シテ居リマス、此法案實施ノ曉ニハ全國各府縣ニ及シテ延長モ非常ナモノニナルト云フコトハ、是ハ疑ナイニトデアルト思ヒマス、詰リ此法案ノ十二條ニ依リマスレバ、從來國道トスルニハ其値打ガ輕イ、里道トシテ町村ノ支辨ニスルニハ少シク重イト云フヤウナモノガ、此法案ノ十二條ニ依リマシテ、自然郡道ニナルト云フコトハ、火ヲ觀ルヨリ明ナコトデアルト思フ、詰リ此法案ニ依リマシテ、郡道ナルモノヲ認メラレ、郡制ノ存置ヲ安定ナラシメ、郡ナル公共團體ノ發達ヲ促スト云フコトニナルニ拘ラズ、本年ハ郡ト云フ公共團體ノ發達ヲ促スガ、將來郡制ハ廢止スルカモ知レナイ、斯ウ云フ御答ハ誠ニ奇異ノ感ジヲ懷ク次第デゴザイマスガ、意見ニ涉ルコトハ避ケマシテ、續イテ伺ヒタイノハ、若シ郡制ヲ廢止スルト云フヤウナ御考ヲ御持ニナッテ居ルト致シマシタナラバ、郡制廢止ノ結果ト致シテ郡道ナルモノハ存在スルノデアリマウカ、郡道ト云フモノハ無クナルノデアリマセウカ、若シ郡道ヲ存置スルト云フコトデアリマスレバ、其郡道ノ維持、負擔ハ如何ナル團體ガ致スコトニナルノデアリマスカ、又郡道ヲ廢止スルト云フコトニナリマシタナラバ、郡道ニ該當スル路線ハ何レノ公共團體ガ……何ト云フ名稱ニナルノデアリマスカ、縣道ニナルカ或ハ里道ニナルカ、ドウ云フコトニナルノデアリマセウカ、場合ニ依レバ郡制廢止ト云フコトヲ實行スルカ知レナイト云フヤウナ御考ヲ持ッテ居ラルノデアリマスレバ、其邊ノ御様子ヲ伺ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 私ノ御答ヘ申シマシタノハ郡制ヲ廢スルカモ知レストハ申上ゲナイ、郡制廢止ノ意見ハ前年ト變ハル所ガナイト申上ゲタ併ナガラ郡制ヲ廢スル存スルト云フコトニ付テハ、一點御答ヲ致シテ居リマセ

ス、ソレハ唯自分ノ意見ダケ申上ゲレバ宜イト思ッタカラ、左様ニ申シタノデアリマス、免モ角郡廢止案ヲ出サナイ以上、現在ニ於テ郡ナルモノハ現在シテ居ルノデゴザイマスカラ、此狀況ニ方ッテ今此道路法案ヲ制定スルニ如何ニスルカ、郡制ノコトヲ考慮シテ、今カラ郡道ヲ認メヌヤウニスルカ、郡制トハ別問題ニシテ、現在郡ナルモノガ存在シテ、又郡道ヲ經營シテ居ル所モアルノデアルカラ、如何ニ處置イタスガ宜イカト云フ考慮ノ上カラ、現在ノ實況ニ最モ適應スルニハ此法案ノ如ク致スガ可ナリト信ジテ、今ノヤウナ案ヲ出シタヤウナ次第デアリマス、將來若シ郡制ヲ廢止スルコトガ行ハレマシタナラバ、其時ニハ郡道ハ無クナルコトガ自然デアラウト思ヒマス、其無クナッタノハ如何ニ處置スルカト云ヘバ、或ハ引上ゲテ府縣ノ經營ニナルモノモアリマセウ、町村ノ經營ニナルモノモアリマセウト考ヘマス、其事ハ將來サウ云フコトガアルトスルナラバ、其時ニ至ッテ處置スルモノ何等困難ナ事柄デナシ、此法案ヲ決定スルニ其邊マデ審議ヲ盡ス必要ガナイト考ヘタ次第デアリマス

○湯淺倉平君 御答辯ニ對シマシテ尙ホ重ネテ伺ヒタイコトガ多クゴザイマスガ、段々時刻モ遅レマスカラ、一應是デ止メマシテ委員會等ニ於テ御尋イタシタイト思ヒマス

○男爵高木兼寛君 本案ノ特別委員ハ十五名ト定メテ御選定アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵中川興長君 賛成

○男爵山根武亮君 先刻本員ハ質問ヲ致サウト思ヒマシタガ、皆サンノ……

○議長(公卿徳川家達君) 今委員ノ問題ニ移ッテ居リマス、高木男爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公卿徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、書記官ヲシテ特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

道路法案特別委員

伯爵林 博太郎君 子爵榎本 武憲君 子爵立花 種忠君

阿部 浩君 男爵山根 武亮君 渡 正 元君

古市 公威君 男爵肝付 兼行君 石黒 五十二君

阪本 鈺之助君 山之内 次君 高橋 作衛君
湯淺 倉平君 大谷 嘉兵衛君 横山 章君
○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲイタシマス
午後零時六分休憩

午後一時三十五分開議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、日程第四、大正六年法律第六號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

大正六年法律第六號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正八年二月二十五日

衆議院議長 大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

大正六年法律第六號中改正法律案

大正六年法律第六號中改正法律案

附則第五項中「大正九年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ、「大正八年十二月三十一日」ヲ「大正八年三月三十一日」ニ、「三分ノ二」ヲ「六分ノ一」ニ、「二分ノ一」ヲ「八分ノ一」ニ改ム

附則第六項中「大正十一年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ、「大正八年十二月三十一日」ヲ「大正八年三月三十一日」ニ、「八分ノ一」ヲ「三十二分ノ一」ニ改メ、「大正九年一月一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正十年一月一日ヨリ大正十年十二月三十一日迄ハ同上差額八分ノ四」ヲ削ル

附則第十三項中「大正九年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

軍人恩給法中改正法律 (大正八年七月法律案第六號)

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十條中「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階」ヲ「第六條ニ依ル官階」ニ改ム

同條第一號中「戰鬪ノ爲」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム
第十四條第一號中「戰鬪ノ爲」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム

第十五條中「前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ」ヲ「現役ヲ離レタルトキ」ニ改ム

第十八條中「海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ「及海軍水雷夫」ニ改メ同様ニ左ノ一號ヲ加フ

八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ

又ハ屯田兵村監視若クハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 戰死シ又ハ戰鬪若クハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ノ爲メ死歿シタルトキ

第二十七條ノ二 第十條、第十四條及前條ノ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附則

本法ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條第八號ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レ又ハ現役中死歿シタル者ニモ之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ該當スル者又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際本法規定ノ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケサル者ハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ給ス

本法施行ノ際退職恩給又ハ免除恩給ト増加恩給ト併セ受ケ又ハ受ケヘキ者ニシテ本法規定ノ金額ヲ受ケサル者ハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス

本法施行ノ際扶助料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニシテ本法規定ノ金額ヲ受ケサル者ハ大正九年一月一日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス但シ下士以下ノ者ノ遺族ニハ本法施行ノ日ヨリ大正七年十二月三十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額三分ノ一、大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額三分ノ二ヲ併給シ准士官以上ノ者ノ遺族ニハ大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三

十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額二分ノ一ヲ併給ス

本法施行ノ際退職恩給又ハ免除恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法規定ノ金額ヲ受ケサル者ニハ大正十一年一月一日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス但シ大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額八分ノ一、大正九年一月一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正十年一月一日ヨリ大正十年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ四ヲ併給ス

前三項ノ場合ニ於テ陸軍卒ニ付テハ陸軍一等卒ノ額ニ依ル

第四項乃至第六項ノ規定ハ第三項ノ規定ニ依リ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ給スル者ニ之ヲ適用セス

本法施行ノ際陸軍武官傷疾扶助及ヒ死亡ノ者祭葬並ニ其家族扶助概則、海軍退職令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退職料又ハ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ第四項乃至第六項ノ規定ニ準シ本法規定ノ金額ヲ給ス

前項ノ規定ニ依リ退職料又ハ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ遺族ニハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五項又ハ第九項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ニ付テハ第五項ノ規定ヲ準用ス

第三項ノ規定ニ依リ新ニ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ受ケムトスル者及第三項乃至第六項又ハ第九項ノ規定ニ依リ金額ノ増加ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ七年内ニ之ヲ請求スルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十項又ハ第十一項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ハ轉給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年内ニ金額ノ増加ヲ請求スルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス但シ大正九年一月一日以後ニ於テ轉給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔政府委員榑内曾次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(榑内曾次郎君) 説明ヲ致シマス、明治四十四年ニ軍人恩給法ガ

改正ニナリマシテ、其以前ノ規定ニ依リマシテ恩給ヲ受ケテ居リマシタ者ニ向ヒマシテ、現行法ニ依ッテ支給ヲ致シタイト云フノガ大正六年法律第六號デゴザイマス、然ルニ此大正六年法律第六號ノ制定セラレマシタ當時ハ、財政上ノ御都合ト云フコトデゴザイマシテ、之ヲ一度ニ更正スルコトガ出来マセヌノデ、五箇年ニ互リマシテ、大正七年一月ヨリ五箇年ニ互リマシテ逐次ニ更正スルト云フコトニナッテ居リマス、然ル所近年物價騰貴ノ結果ト致シマシテ生計上ノ困難ヲ訴フル者ガ多クナリマシテ、其救済ノ一策トシテ此度ノ改正案ガ提出サレタ譯デアリマス、之ニ依リマスト大正六年法律第六號ノ更正ヲマダ經ナイ所ノモノヲ繰上ゲマシテ、一時ニ八年ノ四月一日ヨリ更正ヲスル、斯ウ云フコトニナリマスノガ眼目デゴザイマス、ドウカ御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モナイト認メマスカラ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

大正六年法律第六號中改正法律案特別委員

侯爵蜂須賀 正 韶君	子爵五辻 治 仲君	柴田 家門君
男爵西 紳六郎君	男爵藤井 包 總君	男爵山内 長 人君
男爵徳川 厚君	市來 乙彦君	八木 久兵衛君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第五、時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正八年二月二十五日

衆議院議長 大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案

北海道、府縣及市區町村ハ當分ノ内時局ノ影響ニ因リ必要ナル費用ニ充ツル爲内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得但シ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

一 北海道、府縣ニ在リテハ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ニ於テ北海道、府縣ニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ノ百分ノ八十

一 市區町村ニ在リテハ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ニ於テ市區町村ニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ノ百分ノ六十

前項ノ規定ハ明治四十一年法律第三十七號第四條ノ場合ニ之ヲ準用ス
明治四十一年法律第三十七號第五條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君)、本案ノ説明ヲ致シマス、時局以來地方ノ財政ハ窮迫ヲ告ゲマシテ、最近甚シキ狀況ニアリマス、依ッテ當分ノ中地方財源ノ中最モ主ナル國稅附加税ノ制限ヲ緩和シテ以テ地方財政ノ窮迫ヲ救ヒ、其緩和ヲ圖ラムト欲スルノデアリマス、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ望ムノデアリマス

○阪本鈺之助君 本案時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律デゴザイマスガ、斯ク表題ヲ設ケマスト穩ノコトノヤウニ聞エマスルガ、實ハ國民ニ取リマシテハ全ク増税デアアルノデアリマス、名ハ地方税ノ制限ノ擴張デアリマスルガ、國稅ヲ増加セラレルト何等選ブ所ハナイノデアリマス、即チ現在府縣町村ガ附加税トシテ取ッテ居リマス所ノ税ハ、府縣ニ於キマシテハ八割、市町村ニ於キマシテハ六割ノ増加ニナル案ナノデアリマス、大ニ研究スベキ問題デアラウト思ヒマスガ、政府殊ニ文部當局ハ之ヲ以テ小學教員、中學教員ノ優遇ニ向ケルノデアルガ、言ヒ換ヘテ見レバ國民教育、中等普通教育ノ改善ノ一手段デアルト云フコトヲ聲明サレテ居ルヤウデアリマス、私ハ其結果如何ト云フコトヲ大ニ疑フモノデアリマス、併シ是ハ議論ニナリマスカラ、餘リ多クハ申シマセヌガ、茲デ承リタイノハ各地方ニ増税ヲ許シテ、而シテ其結果ガ其必要ヲ感ジデ居ル所ノ地方ノ小學、中學ノ教員ヲ待遇スルト云フコトニ付テドウ云フ效果ヲ見ルノデアリマセウカ、數字カラ申セバ、府縣市町村ガ其結果トシテ取ル所ノ金ガ總計何程ニナリマシテ、其中何程ヲ如何ナル

ル方法ニ依ッテ小學、中學ノ教員ニ潤澤ヲ及ボスモノデアリマスカ、尙ホ餘裕ヲ生ジマセウガ、其餘裕ハ如何ナル費用ニ使ハレルモノデアリマスカ、是ハ內務ニモ關係ヲ致シマスカラ、實ハ內務大臣ノ答辯ヲモ得タイト存ジマスガ、先刻承リマスレバ、衆議院トノ關係デ御出席ガムヅカシイト云フ御話ガアリマシタカラ、強ヒテハ求メマセヌガ、幸ニ大藏大臣モ御出席ノコトデアリマス、免ニ角文部省ノ教員優遇ト云フコトニ付テ其結果ガドウ云フコトニナルモノデアルト御認ニナルカト云フコト、其他ノ使ヒ方ハドウナルノデアアルカト云フコトハ、是ハ文部以外ノ、內務ナリ、大藏省ノ御解釋ハドウナルノデアアルカ、此國民ニ……承ル所ニ依レバ、四千萬圓カ、五千萬圓ノ増税ニナルノデアリマスガ、其増税ハ世間ノ唱フル所ノ小學教員、中學教員ノ隨分切迫シタル事情ニ對シテ、ドウ云フ效果ヲ的確ニ現スコトガ出來ルカト云フコトヲ極ク的確ニ文部大臣ニ承リタイ、而シテ尙ホ其他ノ金ハ若シ有リトスレバ、如何ニ御使用ニナルカト云フコトヲ、他ノ大臣ヨリ承リタイノデアリマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 御答ヲ致シマスガ、是ハ大體ニ於キマシテ時局ノ影響ヨリシマシテ、總豫算ニ於テモ、臨時費ニ於キマシテモ此教官ニ當ル者ニ付キマシテ増俸ヲ致シ、又一般官吏ニ向ッテ臨時手當ヲ支給スル、斯ウ云フ計畫ヲ立テテ居ルノデアリマス、付キマシテハ此府縣並ニ町村ニ居リマスル所ノ職員ト云フモノニ對シテモ相當ノ手當ヲ支給シタイ、サウシテ鈞合ヲ取リタイト云フコトノ案カラシテ起ッタノデアリマス、是ヨリ徵收シマシタ金ハ何レ後ニ內務當局ノ方カラシテ御返事ヲ致シマセウガ、臨時手當、増俸、物價騰貴ニ依ル旅費其他ノモノニ支給スル、斯ウ云フ大體ノ立方ニナッテ居リマス、其中ニ就テ教育ニ關スルモノヲ御話イタシマス、大體ハ制限ヲ擴張イタシマシテ、地方税ニ於テ、即チ府縣税ニ於テ二千二百萬圓マデイケルト云フコトニ制限ヲ付ケタイノデアリマス、ソレマデ必ズ取ルト云フ積リデハアリマセヌ、各縣ノ狀況ニ依リマシテ、色々ニ區々ニナリマセウ、又町村ノ方ニ付キマシテハ二千萬圓バカリノモノマデイケルト云フコトニ制限ヲ擴張イタス案デアリマス、而シテ其中デ此教育ニ從事シマスル中等程度ノ教員ハ主トシテ府縣ノ支辨ニナッテ居リマスカラ、其方ニ對シマシテハ幸ニ昨年ノ暮ノ府縣會ニ於キマシテ、相當ノ金ヲ支出シマシテ、或ハ増俸、或ハ手當、其額

ガ彼是二百萬圓餘リニ超エテ居リマス、デ今二百萬圓餘リバカリヲ府縣ガ出シマスルト、大體五割ノ一般官吏ニ對スル手當ト鈞合フヤウニナル譯デアリマス、ソレマデ成ルベクイキヤウニ心配ヲシタイト云フコトノ仕組ニナッテ居リマス、ソレカラ町村ノ方ハ小學校ノ教員、文部ノ關係ニ於キマシテハは大變人數モ多イ、從ッテ俸給ノ額モ大體多クゴザイマスカラ、今日彼是支給シテ居ルモノガ四千萬圓ヲ超エマス、ソレニ對シマシテ、若シウマク最高額マデイケレバ、一千百萬圓バカリニナル見込デアリマス、是ハ府縣ノ狀況ニ依リマスカラ、實行上ドウ云フコトニナリマスカ、實行シタ曉デナケレバ正確ナコトハ分ラヌノデアリマス、大體ハサウ云フヤウナ計畫デ此仕組ガアルノデアリマス

○高崎親章君 私ノ今質問セムトスル所ノコトハ阪本君ガ述ベラレマシタカラ、大半ハ其御答辯デ分リマシタカラ、尙ホ漏レタル所ヲ伺ヒタイト思ヒマス、此案ハ洵ニ簡單ナルガ如クデアリマスガ、實ニ國民ニ取ッテ容易ナラスハ改正案デアルト考ヘマスノデアリマス、阪本君ノ言ハレル如ク、名ハ違ヒマスナレドモ、明ニ是ハ増税ノ結果ヲナスノデアリマス、若シ是ガ地租トカ、所得税トカ營業税トカ云フモノニ向ッテ町村教育ノ爲ニ四千萬圓乃至五千萬圓ノ増税ヲスルト云フ案デアリマシタナラバ、大ナル議論ニナルノデアリマス、然ルニ明治四十一年法律三十七號ノ改正ト云フノデ、僅ナル修正ノ如クニ見エマスカラ、左マデ國民ガ注意ヲ留メマセヌカ存ジマセヌガ、國民ノ負擔ノ上ニ於テハ非常ナルモノニナッテ參ルノデアリマス、唯今文部大臣ノ説明ノ中ニモ地方費ガ幾ラ、町村費ガ幾ラト牽ラ舉ゲラレマシタガ、町村以外ニ府縣費ト云ヒ、國費ト云ヒ、國民ノ頭ニ負擔ヲ受ケル所ノモノハ皆一ツデアリマス、是ハ一人ガ皆脊負ハナケレバナラヌノデアリマス、餘ホド是ハ負擔ヲ増ス上ニ於テ非常ナル苦痛ヲ感ズルモノトナルノデアリマス、阪本君ノ質問ニ對シテノ御答デ分ッテ居リマスカラ、此以上ハ申上ゲマセヌガ、唯今尋ネル所ハ此法律案提出ノ理由ノ中ニ「時局ノ影響ニ因リ」ト云フコトガ書イテアリマス、時局ノ影響ニ因ルトアルカラ、ソレノ結果トシテ當分ノ中ト云フ文字ガ這入ッテ居ル、此當分ノ中ト云フコトハ如何ニ解釋ヲ致セバ宜イノデアリマセウカ、是ハ即チ時局カラ起ルコトデアリマスル、時局結了ノ後、即チ講和談判ノ結了マデノ當分ノ内デアリマセウガ、此當分ノ内ノ御見込ノ解釋ヲ伺ヒタイ、而シテ文部大臣ノ御答ニ依ルト、此町村教員ノ手當給料等ノ

コトモアッタヤウデアリマスガ、是等ハ物價騰貴ノ結果ヨリ出ヅルコトト思ヒマスガ、若シ物價ガ戰時前ニ復シタ場合ニ於テハ之ヲ如何御處分ニナルノデアリマスカ、本案ハ矢張り現行ノ姿ニ直チニ復セラル、御趣意デアリマスルカ、ソレヲ伺ッテ置キタイノデス

○阪本鈺之助君 御一緒ニ御答ヲ願ヒタイト存ジマス、唯今文部大臣ノ御答ニ依リマスルト云フト、府縣税ノ方ハ僅ニ文部ノ要求ハ二百萬圓デ宜シイノデアル、サウスルト如何ニモ中學教員優遇ト云フ言葉ヲ大ニシテ、而シテ二千二百萬圓ノ増税ヲサセテ、其中文部省ハ二百萬圓ヲ御使ニナルノデアアル、私共ガ見マスルト地方ノ教育改良ニハ、マダマダセネバナラヌコトガ澤山アルノデアアルニ拘ラズ、文部省ガ如何ニモ仕事ヲスルカノ如ク世間ニ諒解セシメテ置イテ、而シテ僅ニ二千二百萬圓ノ内二百萬圓シカ文部省ハ使ハヌノデアアル、町村ノ方ハ參リマスルト二千萬圓ノ内カラ千百萬圓ヲ文部省ガ使フカノ如ク仰ッジャイマスガ、是モ御言葉ガ濁ッテ居リマシタ、二千萬圓ノ内カラ一千百萬圓使ヘバ九百萬圓殘ル譯デアリマス、其一千百萬圓ト云フ金ガ果シテ小學教員ノ優遇ニ使ハレ得ルノデアアルカ、此場合其要點ヲ承ッテ置キタイ、尙ホ數字のニ僅ニ二百萬圓ホカ府縣ニハ御使ニナラヌノニ、町村ニハ千百萬圓御使ニナル御確信ガアルノデアアルカ、内務ト大藏トノ御話ガ付イテ居ルノデアアルカドウカト云フコトヲ、希ハクバ寧ロ内務大藏ノ内カラ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 内務大臣ガ居ラレマセヌノデ、私カラ最初ノ御問ニ付テノ御答ヲ致シテ置キマス、不十分デアラウト考ヘマス、當分ノ内ト云フコトノ解釋ニ付テノ御尋デアリマスルガ、是ハ時局ノ影響ノ續ク間ト云フコトニ御了解ヲ請ヒマス、此時局ノ影響ニ因リマシテ諸物價騰貴ニ際シ、地方ニ於キマシテモ多少ノ手當等ヲ與ヘテ居リマスガ、ナカ／＼十分ニ行カヌノデアリマス、此方ニ依リマシテハ斯様ナ法律デモ出マスレバ未ダ財源ヲ得ルノ餘地ノアルニモ拘ラズ、法律ニ制限ガアル爲ニ其事モ出來ナイト云フコトデアリマス、ソレデ詰リ地方費支辨ニ係ル道府縣ノ俸給旅費ノ増加、是モ即チ時局ノ影響ニ因リマス、又道府縣ノ吏員其他ノ者ノ臨時手當モ給與スル必要ガアルノデ、物價騰貴ニ連レマシテ地方費支辨ニ屬スル廳費、雜費等モ増加ヲ要求スルノデゴザイマス、從ッテ道府縣ノ各種ノ事業費ニ於キマシテ

モ、物價騰貴ノ影響ヲ受ケテ増額ヲ要スルノデ、又市區町村ニ於キマシテモ同様デ、吏員ヲ始メ、文部大臣カラ申上ゲマシタ所ノ學校ノ分ニ屬シマスル俸給、旅費等ノ増額ヲ要シマスル、ソレニ矢張り吏員其他ノ手當ニシテ市區町村ノ負擔ニ屬スルモノノ増額ヲ要シマス、又役場或ハ役所其他ノ事業費並雜費等ノ増額ヲモ必要ト致スノデアリマス、又其市區町村ノ負擔シテ居リマス各種事業ノ費用ニ於キマシテ、物價騰貴ノ影響ヲ受ケテ増額ヲスル、斯ウ云フ狀況デアリマスル故ニ、此時局ノ影響ノ繼續スル間ハ此法律ニ依ッテ、地方費支辨ニ對シテ臨時ノ財源ヲ求メルト云フコトガ眼目デゴザイマス、最後ニ御尋ノ學校ニ屬シマスルコトハ、尙ホ文部大臣ヨリ詳シク御説明ヲ申上ゲマセウ、尙ホ内務省ニ屬シマスコトデ、此上詳シイコトハ内務大臣出席ノ時ニ御質問ヲ請ヒタク考ヘマス

○阪本鈺之助君 唯今本員ノ御尋ネ申シタコトハ、大臣ガ御差支ナレバ政府委員ガ責任ヲ以テ御答ヘ下サルコトナラバ差支ゴザイマセス、唯今御尋シタコトヲ明確ニ御答願ヒマス

〔政府委員添田敬一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(添田敬一郎君) 唯今御大藏大臣ヨリ御説明ニ相成リマシタ以外ニ於キマシテ、御質問ノ要旨ヲモウ一度……甚ダ恐縮デゴザイマスルケレドモ……

○阪本鈺之助君 繰返シテ申上ゲマスガ、先刻文部大臣ノ御答辯ニ依リマスルト、此法律ノ結果トシテハ、府縣ニ於テハ二千二百萬圓ノ増徴ガ出來ル見込デアアル、然ルニ中學校教員ノ、即チ府縣ノ經費ニ屬スル中等教員ノ優遇ニ付テハ既ニ昨年ノ縣會ニ於テ二百萬圓程ハ増加ヲシテ居ルノデアアルカラ、アトモウ二百萬圓モ使ヘバ先ヅ希望通りノ優待ガ出來ル積リデアアル、斯ウ云フ御答デアリマスルカラ、之ヲ考ヘテ見マスルト、詰リ二千二百萬圓ノ増徴ノ内カラ、文部ノ所管トシテハ二百萬圓ダケ御使ニナレバ、文部ハ御満足ニナルト云フ意味ニ聞エルノデ、サウスルト世間デハ、今度ノ「時局ノ影響ニ因リ」云々ト云フ法律ガ出來タノハ、學校教員ノ優遇ト云フコトニ使ハレルノデアアルト云フヤウナ意味カラ、世間ノ異議モ少イヤウニ考ヘルノデアリマス、然ルニ府縣稅ハ二千二百萬圓増徴ガ出來ルト内ノ内カラ、僅ニ二百萬圓ダケ使ヘバソレデ宜シイト云フコトデアレバ、アト二千萬圓ト云フモノガ、御供ノ方ガ非常ニ大キイモノニナル、又町村ノ方デ二千萬圓ノ増徴ガ出來ル、其

内カラ千百萬圓小學校教員ノ俸給ニ使ハレバ満足デアルト云フ文部大臣ノ御答デアリマシタ、サウスルト是ハ大分多イ、二千萬圓ノ中千百萬圓ハ小學校教員優遇ノ爲ニ使ハレルト、アト九百萬圓シカ殘ラヌノデアリマス、サウスルト是ハドウナルノデアリマス、サウスルト詰リ府縣ノ方デ二百萬圓、町村ノ方デ千百萬圓ハ此教育ノ優遇ニ使フト云フ意味デアアルカ、是ハ他ノ省ニ於テモ大藏内務ノ方ニ於テモ、承認サレテ居ル……文部大臣ノ言ハレテ居ル通り是ダケハ府縣ニヤラセルト云フコトハ御承知ニナッテ居ルノデアアルカドウカ、ソレヲ文部、内務、大藏、其方ノ主務大臣カラ明確ナル御答辯ヲ得テ置キタイ、斯ウ云フコトデアリマス

〔政府委員添田敬一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(添田敬一郎君) 御答イタシマスガ、内務省ニ於キマシテモ既ニ此案ノ理由書ニ書イテアリマスルガ如ク、地方ニ於ケル官公吏ニ對スル増俸、若クハ臨時手當ノ支給ヲスルト云フコトノ希望ヲ有ッテ居リマス、即チ先刻文部大臣ヨリ御述ニナリマシタル學校ノ教員ニ對スル増俸及臨時手當ト云フモノモ、此官公吏ノ全體ノ中ニ含ンデ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマスルカラシテ、内務省ニ於キマシテモ出來得ル限ハ文部省ノ御希望ノ達セラルルコトヲ矢張り希望ハ致シテ居リマスル

○阪本鈺之助君 ソレ以上ノ御答ガ出來ネバ已ムヲ得マセスガ、現ニ昨年小學校教員ノ俸給ヲ國庫デ分擔スル法ト云フモノガ出來マシタ時ニ、此一千萬圓ノ金ヲ如何ニ使フカト云フコトハ、當議場ニ於テモ非常ニ議論ノアッタコトデアリマス、今度ハ國庫ノ金デハアリマセスガ、矢張り同ジヤウナコトニ出テ來タノデアアル、然ルニ既ニ今内務當局ノ御答ニ依リマスルト、此理由書ニ書イテアル通りノコトヲ御述ニナッテ居リマシテ、マルデ教育ト云フコトガ主デアアルト云フコトハ見エマヒスデ、サウスルト文部大臣ダケハ左様ニ御考ニナッテ居リマスガ、諸之ヲ地方ニ實施サレルニ當ッテハ如何ナル使ヒ方ヲスル内務省ノ方デ餘リ力瘤ヲ入レテ教育ノ方ヘ使ヘト云フコトヲ仰ッシヤルコトニモ見エナイノデアリマス、サウシマス文部省デハ豫テ高等教育機關擴張ニ付テ御尋シタ時ニハ、地方ノ方ノコトハ制限外ノ擴張ヲ圖リ教育改善ノ爲ニ使フ積リダト云フ御答ガアルニモ拘ラズ、若シ之ヲ議會ガ認メテ、然ルニ一向教育ノ改良ニハ差シタル效果ガナカッタト云フコトニナリマス、事ガ志ト違フノデアリマス、此點ヲ内務、大藏ハ此以上ノ御答ハ出來ヌノデアアルカ、

サウスルト又幾ラ教育ノ爲ニ使フト云フコトニ付テ御成案ハナイモノデアリ
マスク、ソレダケヲモウ一遍繰返シテ伺ヒマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 尙ホ大藏、内務ノ當局者カラモ御答ヲ致シマス
ルガ、私ガ先ホド御答ヲシマシタノニ補足イタシマシテ、誤解ヲ來タスト云
フトナリマセスカラ……是ハ單リ教育費ダケノ爲ニ制限ノ擴張ヲシタノデハ
アリマセヌ、全體時局ノ影響ニ因リマシテ、府縣並ニ町村ノ事務ニ從事スル
者ニ對シテ手當ヲ出シ其他ノ費用ニ充ツル、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデア
リマス、私ハ其中ノ一部ノモノヲ申上ゲタ譯デアリマス、一部ノモノト云フ
ノハ即チ中等程度ノ教員並ニ初等教育ニ從事スル教員ト云フヤウナモノノ増
俸、若クハ臨時手當、即チ待遇ヲ好クスルト云フ方ノ御話ヲ申上ゲマシタ、
教育ノ方ニシマシテモソレニ止リマセヌ、他ノ郡役所、其他ノ色々ノ機關ガ
アリマスカラ、ソレト同ジヤウニ教育ノ方ニモ矢張り學校ノ雜費其他イロ
イロノモノガ要ル譯デアリマスカラ、獨リ單ニ教員ノ待遇ダケデアリマセヌ、
又各地共ニ是ハ事情ヲ異ニスルノデアリマスカラ、必ズ全國一律ニ行クト云
フコトハ豫想イタシテ居リマセヌ、又此最高額ハ各地共ニ行カウトモ考ヘテ
居リマセヌ、今申シタ金額ノ中デ教育事業ニ對スル金額ガ稍、少イヤウナ
御話ノヤウニモ伺ヒマシタガ、其大小ハ別問題ト致シマシテ、是ハ全體ニ府
縣支辨並ニ町村ノ支辨ニ當ルモノニ付テ時局ノ爲ニ非常ニ物價ガ上ツテ居リ
マス、其他經費ガ増シテ居リマスカラ、ソレヲ緩和イタシタイ、之ヲ致シマ
セスト云フト、ドウモ戸數割ナドニ、其他ノ雜稅ヲ起シタリシテ、地方ニ非
常ニ苦情ガ多ウゴザイマスカラシテ、成ルベク此法ヲ緩和ヲ圖ルト云フ趣意
モ這入ツテ居ルノデアリマス、ソレデ又先ホド申シマシタ金額ダケニ行ク行カ
ヌハ實行上ノコトデアリマシテ、能ク相談セメト決リマセヌガ、ソレハ即チ希
望通り満足スルヤウニ御考ヘ下スツタヤウデアリマスカラ、漸次各種ノ方法ヲ
以テ優遇ノ方法ヲ講ジナケレバナラヌト云フヤウナ考ヲ有ツテ居リマス、ドウ
ゾサウ云フヤウニ御承知ヲ願ヒタイ

○鈴木總兵衛君 私ハ内務、大藏ノ當局ノ方ニ伺ヒタイト思ヒマスガ、此地
方稅ノ制限ヲ擴張サレルコトニナリマス、從來各地ニハ動モスルト云フト
弊習ガアリマス、或ハ收入ヲ多クスルガ爲ニ新稅ヲ起ストカ、或ハ營業稅ノ
附加ヲ重クスルトカ云フコトガアツテ、大體ノ上ニ意外ナル結果ヲ生ズルコト

ガアリマス、是等ニ對シテハ、内務、大藏兩省ニ於キマシテハ、府縣ノコト
ニ付テハ府縣會、又町村ノコトニ付テハ町村會ノ自治ニ委セテ、之ニ付テ制
裁トカ、或ハ又權衡ヲ得セシメル爲ニ監督ト云フヤウナコトハ嚴ニセラレテ、
不權衡ノナイヤウニ取扱ハレルノハ當然デアリマセヌカ、動モスルトサウ行
カヌ、今ヤ制限ガ擴張ニナリマスレバ、或ハ爲政者ガ地方ノ感情、或ハ其他
ノ情實ノ爲ニ偏重偏輕ノコトノアルヤウナコトガアリマシテハ容易ナラヌコ
トデアリマス、之ニ對シテ是等ノ制裁ノ上ニ付テハ如何ナル御考ガアリマス
カ伺ヒタイ

〔政府委員添田敬一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(添田敬一郎君) 御答ヲ致シマスルガ、從來ト雖モ地方稅ノ各種
類ニ付テハ成ルベク權衡ヲ得セシムベキ方針ヲ執ツテ居リマシテ、サウ云フ方
針ヲ監督イタシテ居リマス、此制限擴張法案ガ愈々實施サレマシタ後ニ於キマ
シテモ矢張り其方針ハ改メマセヌ、出來得ル限り此三稅ハ成ルベク權衡ヲ得
セシメル考ヲ監督ヲシテ參リタイト思ヒマス、即チ内務、大藏兩大臣ノ許可
ヲ受ケマス場合ニハ、ソレ等ノ點ヲ考慮イタシマシテ處置ヲシタイト考ヘテ
居ル次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス
〔岡書記官朗讀〕

時局ノ影響ニ因ル地方稅制限擴張ニ關スル法律案特別委員
伯爵松 浦 厚君 子爵稻 垣 太祥君 子爵水 野 直君
子爵白 川 資長君 荒川 義太郎君 男爵南岩倉 具 威君
西久保 弘道君 中山 嘉兵衛君 島 定治郎君

○議長(公爵德川家達君) 日程第六、高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル
法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正八年二月二十五日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 大岡育造

高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案

政府ハ大正八年度ヨリ大正十三年度ニ至ル六年度ニ於テ高等諸學校創設及擴張支辨ノ爲總額三千四百五十五萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ經費中帝國大學ノ擴張ニ關スルモノニ付テハ帝國大學特別會計法ヲ適用セス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 唯今議題ニナツテ居リマスル高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案、此提出ノ理由ヲ申上ゲマス、是ハ今朝モ段々御質疑ガアリマシタ大正八年度ノ追加第二號、教育ニ關スル擴張案ノ財源ニ關スル法律デアリマス、アノ追加豫算ハ六年ニ互ル繼續費デ、總額四千四百五十五萬圓ト云フコトニナツテ居リマスルカラ、其中一千万圓ガ御内帑金デ充當スルコトニナツテ居リマスルデ、三千四百五十五萬圓ト云フモノヲ借入金又ハ公債ヲ以テ之ニ充テタイ、斯ウ云フ計畫ヨリシテ起リマシタル法案デアリマス、極メテ簡單ナル法案デアリマスルカラ、ドウゾ御審議ノ上御賛成ヲ……

○阪本鈺之助君 本案ハ先刻追加豫算ノ場合デアリマシタカ、江木君ヨリ御尋ガアリマシテ、此案ハ不可分ノモノデアルカ、不可分ノモノデアラバ何故ニ可分ガ出來ナイノデアルト云フ其理由ヲ聽キタイト云フ御尋デアリマシテ、本員等モ其御答ハ確ニ承ツテ置キタイト期待シマシタガ、明瞭ナ御答ガアリマセヌ、何故ニ斯ノ如キ龐大ナル計畫ヲ、時々切ツテ御遣リニナツテ宜カリサウナモノデアアル、ソレヲ六年モ先ノコトマデ極メテ置カナケレバナラヌノハ何故カ、斯ノ如キ繼續案ヲ御出シニナルト云フコトニ付テ、幸ヒ當局ノ大臣ガ御出席デアリマスカラ、一應御示ヲ願ヒタイノデアリマス

〔國務大臣中橋德五郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(中橋德五郎君) 御答ヘ致シマスガ、此豫算ノ編成ノ仕方ハ申上ゲル迄モナク、色々ニ組メルモノデアアルノデアリマスガ、併シ成ルベク一ノ計畫ノ下ニ實行イタシタイト云フモノハ多ク繼續費ニ從來ハ組ンデ居ル譯デアリマス、ソレデ今朝ノ提出ニナリマシタ追加豫算ノ如キ學校ノ擴張ハドウカ之ヲ一纏ニシテ、サウシテ今日收容シ切ツテ居ナイ所ノ者ヲ全部收容スルダケノ目的ヲ達シタイト云フ所カラ、斯ノ如キ案ヲ提出シタ譯デアリマス、學校ノコトデアリマスルカラ、一校ガ多ク三年若クハ四年ノ繼續費ニ從來ハ一々ヤツテ出テ來タ例モアリマス、併シ今回ノハドウカシテ之ヲ二十九校及大學擴張ガ、増設ガ十バカリアリマス、ト云フヤウナモノヲ途中デ止メタクナイ、途中デ止メテハ計畫ガ破レル、結果ガ惡イデアラウ、又其中ノ教官養成費ノ如キモノハ、ドウシテモ途中デ止メラレテハ困ルノデアリマス、成ルベクハ此計畫ト伴ツテ、六箇年繼續シテ行クト云フコトニ致シマセスト云フト、實行上餘ホド困難ヲ感ジマス、尙ホ他ノ豫算ニ付テモ、申上ゲル迄モナク鐵道ダトカ、切レバ切レルモノモ隨分アリマスガ、繼續費ニナツテ出テ居ルモノモアルヤウナ譯デアリマス、當局ハ是ハ一箇ニシテ計畫ヲ遂行スル方ガ、本計畫遂行ノ上ニ於テ極メテ宜シイト云フ考ヲ以テ之ヲ提出シタ譯デアリマス

○男爵阪谷芳郎君 過日來豫算委員會ニ於テ大藏大臣ノ御説明ニ依リマシテモ、公債ハ成ルベク鐵道ノ如キ殖産的ノモノニ限ルト云フ御趣意ノヤウニ承ツテ居リマシテ、大ニ是ハ本員ニ於テモ同感ニ考ヘマス、本員ノ記憶スル所ニ依レバ、政府ガ毎年度財政ノ計畫ヲ立テラレル上ニ於テ、公債ノ支辨ニ依ツタト云フコトハ、戰爭ノ費用デアルトカ、或ハ鐵道ノ如キ殖産的ノ性質ノモノニ限ラレテ居ルヤウニ考ヘマス、固ヨリ何モ禁ジタ法律ガアルト云フ譯デアリマセヌケレドモ、學校ノ建物ヲ造ルトカ、地所ヲ買フトカ云フコトノ爲ニ一般會計ニ於テ公債ヲ募ラレルト云フコトハ極メテ耳新シイ、殆ド承知イタサヌノデアリマス、而モ是ガ五六年度ニ互ツテ居リマスカラ、一箇年ニシテ見ルト僅ニ五百万圓位ノ金デアアル、今年度ノ豫算ヲ見マスト云フト、臨時軍事費ヲ合セテ十二億ト云フヤウナ大キナ高ニナツテ居ルノデアリマス、此五六百万圓ノ金ガ十二億ノ歲計ヲ有ツテ居ル政府ノ財政ノ上ニ於テ計畫ガ立タスト云フノハ甚ダ遺憾ナ感ガ致スノデアリマス、殊ニ近年々剩餘金モアリ、又政府ガ豫算委員會ニ御示ニナツタ十年計畫、將來ノ計畫ニ付テモ來年度ハ餘ガアルト云フヤウナ御計算モ出テ居ルヤウニ考ヘマスガ、五六年先マデモ矢張り學校建築ノ爲ニ公債ヲ募ラナケレバナラヌト云フコトハ、財政ノ計畫トシテ甚ダ薄弱ニ聞エルヤウニ思フノデアアルガ、是ハ何トカ適當ナ財源ヲ求メラレ、矢張り從來ノ歷代ノ政府ガヤツテ居ラレタヤウニ、戰爭ノ爲メ若クハ鐵道ノ如キ殖産的ノモノニ限ルト云フ譯ニ計畫ヲ御改ニナルト云フ譯ニイカヌノデアリマスカ、一應政府ノ御意見ヲ伺ツテ置キマス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 阪谷男爵ノ公債支辨ニ關シテ成ルベク鐵道ノ如キ、放資シタ資本ヨリ生ズル收益ヲ以テ元利ノ償還ノ立ツ事柄ニ必要ナル

モノハ公債モ宜カラウガ、左様ナ收益ノ見込ノナイモノノ費用ハ成ルベク公債ニ依ラヌ方ガ財政計畫トシテハ宜イデハナイカ、ト云フ御趣意カラシテノ御質問デ、誠ニ御同感デゴザイマス、唯此高等教育機關ノ計畫ニ付キマシテハ、屢々總理大臣及文部大臣カラモ陳述イタシマシタル通り、今日中學ヲ出タ學生ガ數万收容所ガナイ爲ニ、即チ高等教育ノ機關ノ設備不十分ナル爲ニ年々數万ノ學生ガ方向ニ迷フ、中學ヲ卒業シタ年齢ノ者ガ前途有望ナル光ヲ見ズシテ方向ニ迷フト云フコトハ、實ニ社會ノ狀態トシテ忍ブベカラザルコトデアル、且又此戰爭……歐羅巴ノ戰爭ノ影響トシテ世界中ノ人々ノ思想ニ一大變化ヲ來タサムトシツ、アル此時機ニ於テハ、從前ノ如ク年々數万ノ學生ヲシテ方向ニ迷ハシメルト云フコトハ、如何ニモ棄置キ難イコトデアル、故ニ此計畫ヲ立テテ、十分ニ最初ノ見込通り中途ニ頓挫スルコトノナイヤウニ財源ヲ確メテ行カケレバナラスト云フコトデアリマシタ、然ルニ一方ニ於キマシテ、國家ノ將來、時勢ニ順應シテ各種ノ施設ヲシナケレバナラナイ上カラ考ヘマシテ、連モ此計畫ヲ中途ニ廢セズシテ、初メカラ立ツ計畫通り遂行スルダケノ財源ヲ一般歳入ノ上求メルコトハ困難デアリマス、而モ此計畫ニ對シテ要シマスル所ノ四千四百五十餘万圓ト云フモノハ、一般ニ繼續シテ之ヲ唯今ノ財政ノ狀態デ普通ノ歳入ニ求メルト云フコトハ、計畫ヲ立テマス上ニ於テ餘程ノ無理ヲシナケレバナラス、其無理ト云フノ結果即チ實行ノ出來ナイヤウナコトニナル虞ガアルノデアリマス、唯今阪谷男爵ノ御話ノ如ク十箇年概計表ノ上ニ於テ、九年度ニ於テ一億ト云フ歳入超過ヲ見テ居リマスガ、是モ或ル機會ニ於テ既ニ申上ゲタ通り、臨時事件費カラ唯今出シテ居リマス所ノ時局ノ影響ニ因リマシテ臨時手當其他應費ノ補足等ヲ致シテ居リマス、即チ物價騰貴ノ影響ヲ受ケテ殖エテ居リマス所ノ支出ハ、直チニ九年度ヨリ戰爭前ノ諸物價ニ下ツテ、其臨時ノ増加ノ必要ヲ見ザルニ至ルト云フ確信ハナイノデアリマス、或ハ物價騰貴ノ影響ハ九年度以降ニモ續クモノト見ルト云フコトノ考ヲ以テ計畫ヲ立テナケレバナラス、一方ニ於テハ戰時利得稅ハ講和條約調節ノ年ノ終ヲ以テ廢シマスルノデ、假ニ本年講和ノ條約ガ調印ニナリマス、此本年ノ十二月ヲ以テ戰時利得稅ノ歳入ハ無クナルノデアリマス、前申上ゲタ物價騰貴ノ影響ヲ受ケマシテ増額ヲ要シマスル所ノ應費、旅費、或ハ増俸、増給ノ如キモノハ、普通一般歳入ノ支辨ニ仰ガナケレバナラヌノデアリマス、ソレガ唯今ノ見込デハ凡ソ一億二千万圓モ要ルダ

ラウト考ヘテ居リマス、之ニ對シテ十年概計表ニ於テ歳入超過ヲ一億ト見テ居リマスノデ、即チ一億二千万圓ハ要用ガアルラウト云フ豫定ニ對シテ、歳入超過額ガ一億デアリマスカラ、數字カラ綿密ニ申シマスレバ二千万圓ノ不足ヲ生ゼナケレバナラス、併シ一方ニハ既ニ或ル機會ニ申上ゲマシタル如ク、七年度ニ於ケル歳入増加モアリマスルカラシテ、九年度ノ豫算ヲ立テル上ニ於テ、是マデ臨時事件費ヨリ支辨シタモノヲ補足スルニハ差支ナイ考デ居リマスルト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタ、左様ナ目的ノアル所ノ歳入超過額ガ十年概計表ニハ掲ゲテアルノデゴザイマス、成ルベクハ學校ノ如キモノハ公債若クハ借入金ナドニ依ラズシテヤルノガ正則デゴザイマス、ソレ故從來トモ高等教育機關ノ設備ヲ急ギマシテ、財政ノ許ス範圍ニ於キマシテ、高等學校ノ新設若クハ擴張ヲ圖ツテ參タノデアリマスガ、如何セム普通歳入ニ依リマシテハ其計畫ガ十分ニ行ハレマセヌ、然ルニ一方ニ於テハ前申上ゲマシタル如ク、今日數万ノ學生ガ方向ニ迷フト云フコトハ、此時勢ニ於テ殊ニ棄置キ難イコトデゴザイマス、一時ニ大計畫ヲ立テマシタノデアリマスルカラ、已ムヲ得ズ財源ヲ公債ニ仰グコトニ至ツタノデアリマスカラ、ドウカ其邊ノコトノ事情ヲ御酌取下スツテ、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ請ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案特別委員

伯爵大木 遠吉君

高崎 親章君

大山 綱昌君

男爵神田 乃武君

男爵阪谷 芳郎君

男爵池田 長康君

木場 貞長君

田所 美治君

野々村久次郎君

○議長(公爵德川家達君) 報告ヲ致シマス

〔長書記官朗讀〕

本日議員男爵阪本俊篤君ヨリ三十三名ノ賛成ヲ以テ左ノ修正案ヲ發議セリ

裁判所ノ設立ニ關スル法律案ニ對スル修正案

大正二年法律第九號中改正法律案ニ對スル修正案

○議長(公爵德川家達君) 日程第七、裁判所ノ設立ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第二讀會……此際問題ト致シマスノハ阪本男爵ヨリ提出セ

ラレマシタ修正ノ箇條ト御承知ヲ請ヒマス、修正案ノ朗讀ヲ致サセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

裁判所ノ設立ニ關スル法律案修正案

右議院法第二十九條ニ依リ提出候也

大正八年三月一日

發議者

男爵阪本 俊篤

贊成者

伯爵松 浦 厚 伯爵柳 原 義光 小野田 元熙

男爵石 黒 忠 憲 荒川 義太郎 男爵高千穂 宣麿

男爵名 和 長 憲 男爵西 紳六郎 男爵阪 井 重季

男爵内 田 正 敏 男爵山 内 長 人 男爵船 越 光之丞

男爵千 秋 季 隆 男爵斯 波 忠三郎 男爵安 場 末喜

男爵伊 丹 春 雄 男爵本 田 親 濟 男爵福 原 俊九

男爵清 水 資 治 男爵永 山 盛 興 男爵今 園 國貞

男爵佐 竹 義 準 男爵藤 村 義 朗 男爵小 畑 大太郎

男爵東 郷 安 男爵矢 吹 省 三 谷 森 眞男

藤 田 四 郎 高 田 早 苗 伊 澤 多喜男

江 木 翼 湯 淺 倉 平 橋 本 辰二郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

裁判所ノ設立ニ關スル法律案中第五項ヲ左ノ如ク改ム

栃木縣安蘇郡佐野町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ佐野區裁判所ト稱ス

〔男爵阪本俊篤君演壇ニ登ル〕

○男爵阪本俊篤君 唯今議場ニ向ッテ朗讀サレマシタ所ノ、本員ヨリ提出イタシマシタ所ノ修正案ニ付キマシテ單簡ニ其趣旨ヲ申述ベタイト思ヒマス、大正二年行政整理ノ結果廢止サレマシタル所ノ區裁判所ハ百二十八箇所、其中今回ニ至リマスマデ三回ニ回復セラレマシタ所ノ區裁判所ノ數ハ九十餘箇所ニ上ッテ居ルノデアリマス、其中單純ニ元ノ場所ニ復活セラル、コトナクシテ、今回ノ例ノ如ク佐野ニ復活サレマセズシテ、其隣接ノ町タル足利ニ復活セラレタト云フコトハ、深く本員ノ注意ヲ惹起シタノデアリマス、ソコデ過日此委員會ニ於キマシテ、特別委員ノ一人ト致シマシテ政府委員ニ向ッテ其説明ヲ

求メタノデアリマス、然ルニ政府委員ノ説明ハ不幸ニシテ本員ノ疑問ヲ解クコト能ハザリシノミナラズ、益々本員ガ考ヘテ居リマシタ通り、是ハ足利町ニ新設サレズシテ、元ノ佐野町ニ復活サレルコトガ適當デアルト云フコトノ信念ヲ確メタ次第デアリマス、區裁判所ノ箇所ヲ選定スルニ當リマシテハ、勿論其土地ノ經濟ノ狀況、人口、戸數其他一般ノ經濟狀態等ヲ考慮イタシマサルコトハ勿論デアリマスルガ、是ハ第二義ノ條件デアリマシテ、最モ考慮スベキコトハ區裁判所ニ於テ取扱ヒマス所ノ裁判ノ事件數及交通ノ便否ト云フコトガ最モ大切デアルト考ヘマス、然イタシマシテ、此裁判所ノ取扱ヒマサル件數ト申シマスルモ、是モ究極イタシマス所ノ人民ノ便利ヲ圖ルニ基クコトデアリマスカラ、交通ノ便否如何ト云フコトガ、問題ヲ決定スルノ第一義デアラネバナラヌト考ヘルノデアリマス、ソコデ此便否如何ト云フコトヲ、佐野町ト足利町ノ兩方ニ涉ッテ見マスルトキハ、是ハ佐野町ニ置ク方ガ此安蘇足利兩郡ヲ通ジテ最モ適當ナル場所ト云フコトニ判斷ヲ致スノデゴザイマス、勿論一ト所ニ置イタ區裁判所ガ總テノ地點カラシテ便利デアルト云フコトハ到底望ムコトノ出來ナイコトデアリマス、何レノ所カ不便ノ所ガ出來ナケレバナラヌノデアリマスガ、總體ヲ通ジテ比較的便利ノ所ニ置クト云フコトニナラネバナラヌノデアリマス、所デ此問題ハ別段議論モ評定モ要ラヌコトデア

ル、地圖ヲ見サヘスレバ直グニ此問題ガ決定サレルモノデゴザイマシテ、試ニ足利ノ方ニ置ク方ガ宜イト云フ方ノ側カラ見マスルニハ、足利郡ノ方ニハ菱村ト云フ所ノ遠隔ノ地方ガアル、之ヲ佐野町ニ裁判所ヲ置キマストキニ、此菱村ト云フ所カラハ餘程距離ガ遠クナル、菱村ニ取ッテ甚ダ困難ナコトニナル、又之ヲ足利町ニ置キマストキニハ安蘇郡ノ中ニ於テ少カラヌ交通上ノ不便ヲ感ズル村落ガアルノデアリマス、例ヘバ氷室村又ハ野上村ナドト申シマスル所ノ村カラ致シマスルト、假ニ足利町ニ置キマスルト此村カラ足利町ニ參ラウトスルニハ五六里ノ道ヲ歩イテ參リマス、サウシテ東武線ニ接續イタシマス所ノ私設鐵道ノ葛生トカ或ハ田沼ト云フヤウナ途中ノ「ステーション」ニ辿リ著キマシテ、其「ステーション」カラ又若干汽車ニ乘リマシテ、サウシテ佐野町ニ到着イタシマス、ソレカラ今度ハ東武線ヲ乘換ヘテ、サウシテ桐生ノ方面、足利ノ方ニ參ルノデアリマス、所ガ此線路ハ小山ノ方ヘ通ズル線路デアリマシテ、是等乘換トカ鐵道ノ時間ノ關係上カラ餘ホド接續ガ惡ルイト云フコトデアリマス、ソレ故ニ是等ノ村落カラ足利町ニ參ルト云フコトハ餘

ホド困難ナ事情デアルト云フコトデアリマス、之ヲ足利郡ニアリマス所ノ菱村アタリカラ二里ノ道ヲ歩イテ參リマシテ、桐生カラ足利アタリマデニ涉リマスル所ノ或ル「ステーション」ニ著キマシテ、ソレカラ佐野町ニ參ルト云フモノニ較ベマスルト遙ニ困難デアルト云フコトデアリマス、是ハ地圖ノ上カラ見テ如何ニモ左様デアラウト云フコトノ判斷ガ玆ニ付クノデアリマス、ソコデ此交通問題ハ地理上ノ關係ニ於キマシテ、足利町ニ置クト云フコトハ安蘇郡ノ村落ノ一部ニ取リマシテ苦痛ヲ致シマスコトハ、之ヲ佐野町ニ置キマシテ足利郡ノ一部ノ村落ガ苦痛ヲ感ズルヨリモ甚シイト云フコトニナルノデアリマス、ソコデ今度ハ論旨ヲ一轉イタシマシテ、政府委員邊リノ説明ヲ聽キマスルト、安蘇郡ト足利トノ關係ニ於テハ、交通上ニ於テ言ッテ見ルトマア五分五分デアアル、互ニ五分五分ノ不便ガアル、斯ウ我慢スレバ宜シイガ、玆ニ此五分五分ヲ一方ニ傾ケシメタ理由ト云フモノハ、今回上都賀郡ニアリマス所ノ足尾町ト云フモノガ、此管轄區域ニ這入ッテ參ッタモノガアリマスカラ、是ガ理由トナリマシテ、此足利町ニ置クカ佐野町ニ置クカト云フ問題ニ對シマシテ、佐野町ニアラズシテ足利町ニ置ク重ナル理由トサレテ居ルノデアリマス、ソレハ何故ト申シマスルト、足尾町ノ方カラ見マス、足利町ノ方ガ十分九分バカリ足尾町ノ方ヘ寄ッテ居ル、距離ニ於テハ約六分ノ一、時間ニ於テハ約十分ノ一ダケ足尾町ノ方ヘ寄ッテ居ルノデアリマスカラシテ此足尾町ヲ合セマスレバ、ドウシテモ足利町ヘ置クガ適當デアアル、斯ウ云フ御見解デアリマスガ、併シ本員ノ見ル所ニ依リマスルト此點モ矢張り前ノ安蘇足利兩郡ノ關係ニ於キマシテ、佐野町ヲ以テ適當トスルト云フ所ノ此同一ノ理由ヲ以テ私ハ是ハ判斷シテ然ルベキモノト思フノデアリマス、云フノハ是ハ交通ノ便否ト云フ矢張り問題ノ上ニ於テ左様ニ決定サレナケレバナラヌモノト考ヘルノデアリマス、ト申シマスルノハ足尾町カラ足利町ヘ到著イタシマスルニハ、足尾鐵道ニ依リマシテ、先ヅ桐生マデ到著イタシマシテ、桐生カラ又東武線ニ依ッテ足利町ヘ參リマス、此時間ハ約三時間ト二十分、斯ウ云フ時間ニナリマス、サウ致シマスルト足尾町カラ直チニ汽車ニ乗ッテ、サウシテ足利町マデ、サウ云フヤウニ全部鐵道ニ依ッテカラシテ到著スルコトガ出來ル、其時間ガ三時間二十分、然ルニ之ヲ一方足利町ニ置キマスレバ、前ニ述ベマシタ如ク阿蘇郡ニ二三ノ聯絡スル道ヲ五里モ六里モ歩キサウシテ或ル私設鐵道ノ停車場ニ辿リ著イテ、サウシテソレカラ又東武線ニ來テ、ソレカラ乗換ヘテ

行クト云フコトニ、斯様ナ不便ナコトニナルノデアリマス、若シ其方ガ不便ト云フコトガ道理アルモノトスレバ、是ハ矢張り足尾町ニ對シテモ安蘇郡ノ一部、是等ノ村落ノ理由ノ方ヲ重シトシナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、是ガ單純ニ交通上ノ關係ニ於キマシテ左様ニ斷定スルコトガ適當デアルト私ハ解釋スルノデアリマス、尙ホ政府委員ノ説明ニ依リマスルト、足利町ハ佐野町ニ比スルト、足尾町ニ對シテハ中心ノ位置ニアルカラト云フコトデゴザイマシタ、成程三箇所ヲ見レバ三箇所ノ中、眞中ノ方ニ寄ッテ居ルノハ疑モナク足利町デアリマスガ、併ナガラ此中心ト云フ文字ハ耳ニハ甚ダ好ク響キマスケレドモ、併ナガラ先ニモ申シマス通り、時間トシテ僅ニ十分ノ一ダケ、ソテラニ寄ッテ居リマスカラ、之ヲ以テ中心トスルノ理由トスルニハ甚ダ薄弱デアルト私ハ信ズルノデアリマス、カルガ故ニ此足利町ニ區裁判所ヲ置クト云フコトハ安蘇郡、足利郡、又ソレニ加ハリマシタ足尾町ヲ併セテ、交通上ノ便否カラ致シマシテ佐野ガ適當ト考ヘルノデアリマス、是ハ單ニ交通上ノ便否ガ即チ此問題ノ決定ノ要素デナケレバナラヌト云フ要件ニ付テ斯様ニ判斷スルノデアリマス、又此ノ他ニ本員ヲシテ區裁判所ヲ置クノハ足利町ニアラズシテ佐野町デナケレバナラヌト云フ理由ハ、此他ニ理由ヲ認メテ居ルノデアリマス、ソレハ如何ナルコトカト申シマスルト佐野町ニ區裁判所ヲ復設イタシテ貫ヒタイト云フコトニ付テ、今日マデ最近請願ガ三回續イテ本院ヲ通過イタシテ居ルノデアリマス、所デ若シ是ガ原案ノ如ク佐野町ニアラズシテ足利町ニ置クコトニナリマスルト、此請願ニ對スル所ノ本院ノ採擇サレタル所ノ、此決議ト云フモノヲ甚ダ薄弱ナラシムル譯デアルト考ヘルノデアリマシテ、是ハ請願ニ對スル本院ノ權威ト致シマシテ大ニ御考慮ヲ願ヒタイ點デアリマス、次ニハ日光町ト足尾町トノ此聯絡ノ關係デアリマス、是ハ約三里バカリ隔ッテ居ルト云フコトデアリマシテ、唯今ハ鐵道ノ敷設ガナイ爲ニ足尾町カラ裁判事件ヲ持ッテ參ルノニハ、遙、足尾町ヨリ足利、佐野、小山ヲ經マシテ、宇都宮ノ區裁判所ニ參ルコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ今回足尾ハ之ニ加ッテ爲ニ足利町ニ置クコトヲ適當トサレルコトモ、此鐵道ニ依ルヲ便利トスル所カラ斯様ニ原案ガ出來テルノト信ジマス、然ルニ此日光ト足尾トノ間ハ是ハ早晚鐵道ガ架カルモノト信ズルノデアリマス、既ニ鐵道院ノ測量線トシテハ地圖ノ上ニモ明瞭ニ現ハレテ居リマス、左様イタシマスルト、早晚此鐵道ガ通ズルト云フコトニナリマスルト、宇都宮ニ參ルノニハ足

尾カラ日光ヲ經テ約二時間デ宇都宮ヘ到着スルノデアリマス、之ヲ現在ノ足尾町カラ桐生ヲ經テ足利ニ到着イタシマスル時間、約三時間ト二十分ニ比ベマス、日光ト足尾町ノ間ハ鐵道ノ時間表ヲ勘定ニ入レマシテ約一時間ダケ宇都宮ノ方ヘ足尾町ノ方カラ早ク到着スルコトガ出來ルカラシテ、早晚鐵道ガ落成イタシマス曉デ、交通ノ便利上カラ致シマシテドウシテモ矢張り是ハ宇都宮ノ方ヘ現今ノ如ク區裁判所管轄ヲ復活サレナケレバナラヌヤウナコトニナルノデアラウト考ヘル、又斯ク考ヘルノガ相當ノ問題ノ歸結ダト私ハ考ヘマス、サウ致シマス、今日足利町ニ區裁判所ヲ置キマシテ、サウシテ足尾町ヲ之ニ結付ケルト云フコトハ今日一時ノコトデアリマシテ、將來ハ左様デナイノデアリマス、一時ノ交通ノ便利上カラ將來ノ施設ヲ誤ルト云フコトノ結果ニナルト思フ、是亦考慮スベキ一點ト考ヘマス、ソレカラ尙ホ經費上ノ問題デアリマスガ、佐野町ニハ從來ノ廳舍モアリ敷地モアルノデアリマス、廳舍ハ大分腐朽シテ、改築セネバナラスト云フコトデアリマスガ、併ナガラマダ三十年ソコノ建物デアリマスカラ、田舎ニ於ケル斯様な廳舍ト致シマシテハ此位ノモノハ外ニモ存在シテ居ラウ思フ、サウシテ見マス、佐野町ニアル敷地廳舍ト云フモノハ、誠ニ經費上カラ考ヘマシテ便利ナルコトニナツテ居ル、然ルニ之ヲ足利町ニ置クト云フコトニナリマス、新ニ敷地又廳舍ヲ調ヘナケレバナラスト云フコトデ、是等ハ地方ノ町民カラ寄附サレルコトニナルト云フヤウナ御話デゴザイマスガ、成程寄附トナリマスレバ直接政府ノ經費ニハナリマスマイカ知レマセスケレドモ、是等地方人民ノ負擔ハ國家ノ大所カラ見マス、矢張り是ハ國家ノ負擔デ、經費上カラ考ヘマシテモ此點ハ矢張り佐野町ニ置クト適當ト云フコトニナルノデアリマス、最後ニ此佐野町ト足利町ト今回區裁判所回復ニ關シマシテ少カラヌ紛擾ヲ惹起シテ居ルト云フコトデアリマス、從來ハ此町ハ互ニ提携イタシマシテ、教育ノコトニ、其他經濟上ノコトニ、佐野町ノ者デ足利ノ銀行ノ預金者デナイ者ハナイ、或ハ足利ノ者デ佐野町ノ銀行ノ預金者デナイモノハナイトカ云フヤウニ、互ニ仲好クシテ、サウシテ經濟上ノ發達並ニ教育上ノ改良ヲ圖ツテ居ッタモノガ、斯様な紛爭ヨリ致シテ、互ニ反目ヲ致シ、其趣ク所ハ如何ナルコトニナルカモ知レヌト云フヤウナ陳述等モ見エテ居リマス、ガ是ハ一ハ感情上ノ問題モ茲ニ混ツテ居ルコトデアリマスカラ、私ハ是等ノコトニ對シテハ相當ナ判斷ヲ與ヘテ居リマシテ、必シモ左様ニ酷イコトデナイト思ヒマスケレドモ、從來

此佐野町ト足利町ハ互ニ相携ヘテ本院ヘ請願モ致シテ居ッタ間柄デアリマスカラ、足利町ガ分離シテ、ソコニ復活サレマス云フコトハ、佐野町ニ取リマシテハ感情上多分左様ナ狀況デアラウト云フコトハ疑ナイノデアリマス、元來此區裁判所ノ復設ト云フコトハ、一時政府ガ涙ヲ吞ンデ、サウシテ撤廢サレタモノデアリマセウガ、多年ノ民意ヲ容レラレテ、即チ善政ヲ布ク意味ニ於テ復活サレムトスルモノガ、却ツテ此兩町民間ニ紛爭ヲ起シ、延イテハ我が東北ニ於ケル所ノ殖産興業ノ殷盛ナル地點ニ、斯様な爭ヲ生ジマス云フコトハ、國家ノ爲ニ甚ダ歎クベキコトナルハ勿論ノニト、政府ニ取リマシテモ蓋シ御不本意ナコトデアラウト考ヘルノデアリマス、是等ノ事情ヲ綜合イタシマスト、今回ハ區裁判所ヲ新ニ足利町ニ設立イタサレルコトナクシテ、二十餘年來ノ歴史ヲ持ツテ居リマス所ノ此佐野町ニ復活サレルコトガ最も至當ナ御處分デアルト考ヘルノデアリマス、斯様な理由ニ依リマシテ、本員ガ修正說ヲ提出シタノデゴザイマスカラ、何卒滿場諸君ノ御賛同ヲ願ヒタウ存ジマス

〔加太邦憲君演壇ニ登ル〕

○加太邦憲君 諸君、唯今坂本男爵ヨリ本案ニ付キマシテ修正ノ御意見ガ出マシテ、是ガ議題トナリマシタニ付キマシテハ、私ハ之ニ對シマシテ原案賛成ノ意見ヲ述ベタウゴザイマス、坂本男爵ガ申サレマスノニ、此裁判所ノ管轄ニ付キマシテハ、其管内ノ裁判所ヘ通ヒマスル地理上ノコト、又訴訟ノ事件ノコトガ、最も必要ナコトデアルト斯ウ云フ御說デゴザイマスガ、最も是ハ私ガ賛成スル所デアリマス、今日ノ問題ヲ大體カラ申シマス、原案ニ於キマシテハ東ニアル安蘇郡ノ人民ガ奥カラ出マスルニハ斯ウ出テ、佐野町ヲ經テ、足利ニ來ル、斯ウナルノデアリマス、若シ佐野ニアルトシマスレバ、足利ノニチラノ郡民ガ足利町ヲ經テ、佐野ニ出テ來ル、コチラノ方ノガ爰ヘ來ルカコチラノ方ノガ爰ヘ來ルカト云フ、是ガドチラヘスルカト云フ問題デアリマス、ソレデ雙方ヲ段々地圖ニ依リ又表ニ依リシテ調べ見マスルト、安蘇郡ノ奥ノ方ニ丁度此佐野カラ西北ニ當リマスガ、飛駒村ト云フ僻村ガゴザイマス、其飛駒村カラ佐野ヲ經テ足利マデ出テ來ルノニ、ドレダケノ時間ガ掛カルカト申シマス、歩クノト鐵道ト兩方アリマスルガ、六時間掛カリマス、之ヲ一ツ除ケマス云フト、アトハドチラカラモ四里ガ頂上デ、其一ツノ外ハ御互ヒコデゴザイマス、ドチラカラモ同ジデゴザイマス、ソニデ此裁判所ノコトハ修正論者ノ御說ノ通り距離モ大事デアリ、事件モ大事デアリマ

スルガ、サウスルト安蘇郡ノ方カラ申シマス、六里出テ、飛駒村ガ一ツ擢
デテ、遠クデ、之ヲ不便ト云フ一ツノ理由ニナルデアリマスガ、又事件ノ
コトカラ大ニ考ヘナクレバナリマセヌケレドモ、不幸ニシテ私ハサウ云フ統
計ヲ有チマセヌ、或ハ司法當局ニ於テモサウ云フ一箇村ヅ、ノ統計ハマア無
イカモ知レマセヌ、私ハ世間一般ノ狀態カラ推シマシテ考ヘマスノニ、此飛駒
村ニドレダケノ事件ガアリマセウカ、多ク考ヘテ、一年三件、十年三十件、
是ダケノ事件ガアリマセウカ、ドウデゴザイマセウカ、私ノ腹一抔言ハシテ
貰ッたら、一件モ無イカモ知レマセヌ、斯ウ云フ所ハ訴訟ハナイモノデアリ、
絶對ニ無イトハ申サレマセヌガ、殆ド無イモ同様デアリマス、訴訟ト云フモ
ノハ總テ都會ノ地、交通ノ激シイ、産業ノ多イ所、サウ云フ所ニ多イノデゴザ
イマス、唯今ノ關係カラ推シテ申シマス、佐野ノ周圍ト足利ノ周圍ト、斯
ウ云フ所ニアルト云フコトニ決ッテ居ルノデス、ソレデアリマスケレドモ、併
ナガラ免ニ角一村或ハ訴訟ガ無イト云フコトハ勿論言ヘマセヌカラ、多少ハ
アルモノト固ヨリ認メナクレバナリマセヌガ、唯距離ノ方カラ言ヒマス、
其飛駒村一村ノ爲ニ足利ノ方ガ一ツノ理由ヲ有ッテ居ル、斯ウ云フコトニナル
ノデアリマス、所デ今度ハ足尾町ヲ此管區ニ屬スルト云フコトニナリマシタ
ニ付キマシテハ、之ニ付テハ反對ノ御論ト云フモノハ一向ゴザイマセヌ、此
足尾ト申シマスモノハ陸軍出來ノ地圖デ、コチラガ尺度ヲ取ッテ見マスルノニ
十六七里アルト考ヘラレマスガ、併ナガラ鐵道ガ出來マシテ、三時間デ足利
マデ來レルト云フ今日便利ナ場所ニナリマシタノデゴザイマス、サウシマス
ルト、今日足尾ノ人民ハモウ此足尾ノ鐵道ト云フ唯一ノ鐵道ニ依ッテ平地ニ
出テ來ルヨリ外ハゴザイマセヌノデアリマス、ソレカラ此足尾ト云フモノガ
將來ハ日光ノ方ヘ鐵道ガ出來テ、アノ方カラ交通ノ便利ガ出來テ、元ノ宇都
宮ニ管轄ヲ屬セラレルヤウナコトガアリマスマイカト云フヤウナ御説デアリ
マスガ、ソレハ將來ノコトデ分リマセヌ、日光ノ鐵道ガ出來ルカモ分リマセ
ヌ、併シ足尾カラ日光ト云フモノハ歩キマス、七里ト云フコトニ承ッテ居リ
マス、此七里ガ圖ニ依リマス、一ツノ山脈デゴザイマセヌ、幾ツカノ山ガ
アリマス、ソレデ之ヲ鐵道ヲ造ルト云フコトニナリマシタラ、殆ド熱海線ヲ
起サウナ鐵道デアルマイカト私ハ考ヘマス、ソレデ將來出來ルニシマシタ
所ガ、今日カラ計畫シテ、私ハ五年デ出來ルト云フコトハドウモ自分ハ想像
ガ出來マセヌ、或ハ十年モ掛ルカモ知レマセヌ、サウスルト此鐵道ハ假ニ出

來ルモノトシタ所ガ、ソレヲ慮ッテ、今日ノ管轄ヲ宇都宮ノ方ニ移シテ置クト
云フコトハ、是ハ餘リノ早計デ、出來マシタ上ノ便否ニ依ルノ外ハナイト思
ヒマス、此足尾町カラ足利ノ方ニ出マスル地理ハ、是ハ地圖ニ依リマシテハ
山脈ハナイノデス、渡良瀬川ニ依リマシテ弓形ニズツ西ニ連ッテ、桐生ヲ經
テ足利ニ出テ來ル、斯ウ云フ次第デ、鐵道ヲ造ルニモ此方面デ餘ホド便利ナ
モノト思ヒマス、ソレデ今日修正論者ノ御説ノ通り三時間デ足利ヘ出テ來ラ
レルノデアリマスガ、或ハ其日光ノ鐵道ガ出來マシテモ、ヒドイ山デゴザイ
マスカラ、足利ヘ出テ來ルノト別ニ變リハナイカト思ハレマス、ドッチミチ是
ハドウモ今日ノ論デハナイト思ハレマス、建築ノコト、或ハ佐野、足利ノ兩住
民ノ將來不和ニナリハシナイカト云フヤウナ御説モアリマスガ、多少不和ノ
コトナゾモアルカモ知レマセヌガ、併ナガラ今日仕事ヲ始メタノデアリマス
カラ、裁判所ガ佐野ニ置カレルコトニナッたら全ク是ガ止ムトモ思ハレマセ
ヌ、ソレカラ此事件ノコトデアリマスガ、今ノ通り飛駒村ハ殆ド事件ガナイ
ト同様ト申上ゲマシタガ、反對ニ足尾町ハ民刑合シマシテ、昨年ガ百八十三
件アリマス、三年間合シテ三百六十四件アリマス、先ヅ足尾ヲ除ケテ、安蘇
郡ト足利郡トノ比例ヲ見マス、安蘇郡ハ此二郡ヲ合併シマシタ廣サノ五分
ノ三ヲ占メテ居ルニ拘リマセズ、事件ハ少イ方デ、三年合シテ四百八十三件デ
アリマス、足利郡ハ五分ノ二ノ小サイ方デアリマスガ、三年デ六百九件アリ
マス、サウシマス、對數ガ安蘇郡ノ五ニ對シテ足利郡ガ六、斯ウ云フコトニ
ナッテ居リマス、ソコデ足利ノ方ヘ足尾ノ三百六十四件ト云フモノガ附キマス
ルカラ、サウスルト安蘇郡ノ五ニ對シテ足利郡ノ十、丁度佐野ノ倍ヲ占メル、
斯ウ云フコトニナリマスルカラ、此事件ノ上カラ申シマス、云フト、安蘇
郡飛駒村ニ比スベキデアリマセヌ、唯併ナガラ飛駒村カラ出マスルニハ草
鞋履デ歩クノデゴザイマスカラ、勞ハ多ウゴザイマス、足尾カラ出マスルニ
ハ汽車ニ座ッテ出ラレルト云フノデ、至ッテ樂デアリマス、ケレドモ其代リ費
用ガ掛ル、斯ウ云フコトニナリマスカラ、ドウモ件數ナリ地理ナリノ上カラ
較ベルト云フト、足利ノ方ニ裁判所ヲ置カレルト云フコトガ相當デアルト、斯
ウ私ハ考ヘマス、ソレカラ尙ホ銀行ナリ産業上ノコトデアリマスガ、人口ノ
多イ所ノ産業ノ少イ所ト云フヤウナ所ハ總テノ人事ガ進歩イタシマスルニ連
レテ矢張り訴訟モ將來殖エテ來ルニ決ッテ居ルノデアリマス、將來ハサテ措キ
マシテ、今日ノ有様ヲ御話イタシマスルガ、總テ繁昌ノ度合ヲ安蘇郡ト足利

郡トヲ比較イタシマスルニ、大キイ方ノ安蘇郡ノ人口ガ九万一千……其以下ノ數字ハ略シマス、ソレカラ小サイ方ノ足利郡ガ十万六千、ソレカラ此稅額ニ付キマシテ安蘇郡ハ六十六万一千、足利郡ハ一百一万五千、ソレカラ生産物ノ額ニ於キマシテハ安蘇郡ハ七百六十三万、足利郡ハ千四百七十五万六千、斯ウ云フ風デ、安蘇郡ニ較ベマスルト小サイ方ノ足利郡ガ倍ヲ占メテ居ル、斯ウ云フ有様デアリマス、ソレカラ今度ハ佐野町ト足利町ト比較イタシマスルト、佐野町ノ人口ガ一万五千、足利町ノ人口ガ三万四千、直接國稅ハ佐野町ガ三万九千、足利町ガ九万二千、斯ウ云フ風ニナリマシテ、佐野町ニ較ベマスルト足利町ガ倍以上アル、斯ウ云フコトニナリマス、ソレカラ尙ホ落シマシタガ郡村カラ裁判所ヘノ關係ガドウ云フコトガ一番多イカト申シマスルト登記デゴザイマス、登記ノコトデハ是ハモウ邊鄙ノ村デモ何處デモ皆裁判所ヘノ用ガアルノデアリマスガ、安蘇郡ノ方ニ於キマシテハ其方ノ不便ガ一ツモナイノデアリマス、山ノ方ト佐野町トノ間ニ田沼町ト云フノガアリマシテ、是ニ別ニ登記所ガ置イテアリマスルカラ、モウ其方ハ一ツモ苦情モナク、便利ガ出來テ居リマス、唯今申上ゲマシタヤウナ次第デ、此佐野、足利ト兩所ヲ比較イタシマスルト、今日ノ狀態デハ足利町ニ置カレルノガ相當デアラウト考ヘマス、佐野町ノ方ニハ以前アツタ、以前裁判所ガアツタ歴史ハアリマスクレドモ、ソレハ餘リドウモ重ヲ置クニモ及ブマイト思ヒマス、モウ今日ノ狀態ヲ以テ相當ナ場所ニ置イタラ宜カラウト私ハ思ヒマス、段々述ベマシタヤウナ次第デ、私ハ修正案ニ反對イタシマシテ、政府ノ原案ニ贊成ヲ致ス次第デアリマス

〔小野田元熙君演壇ニ登ル〕

○小野田元熙君 私ハ修正案ニ贊成スル者デゴザイマス、モウ修正論者カラ十分ニ諸君ニ申上ゲマシタカラ、申上ゲルコトモゴザイマセスガ、唯極ク簡單ニ二點ヲ補フテ置キマス、第一ハ請願委員ニ自分ハ關係イタシテ居リマシタガ、此問題ハ再三請願ニ出テ參タ問題デゴザイマス、付キマシテハ將來ノ關係ヲ深ク考ヘマシテ、司法省當局者ニ出テ御覽ヒ申シマシテ、如何ニモ朝令暮改ノヤウナコトノ段々法律ガ出テ參リマス、前途ドウナリマスルカ、極ク打明ケタコトヲ請願委員デ述ベテ貰ヒタイト云フコトヲ述ベタノデアリマス、其時ニ殘ラズ復活スル、將來ノ爲ニ……尙ホ一二殖エルカモ知レヌ、其場所ハ今明言ガ出來ヌ、全ク人民ガ不便ヲ感ジテ居ル、當初ノ行政整理ヲヤ

ツタ當時ハ遺憾ナガラア、云フコトデ廢シタノデアッタ、今段々國民ガ發達シテ、是ハ甚ダ宜クナイコトデアッタ云フ考ガアル、斯ウ云フコトデアッタデス、サウ云フコトデアリマシタ故ニ、請願委員ニ於キマシテ十分ニ審議ヲ盡シマシテ、追ッテ尙ホ經濟ハドウナサルカ、判事ノ定員モ増サナケレバナルマイシ、又建物ノ費用モ掛リマセウ、判事ノ方ハ繰合セノ付クダケ都合スル、又建物ノ方ハ從來ノ建物ヲ使用シ、又或ハ賣拂ツタ所ハ土地カラ寄附サセル、斯ウ云フ問題デアッタ、是ハ請願委員デ審議ヲ盡シマシタ時ノ狀況デアリマス、ソレカラ今度改正案ノ段々司法當局者ノ説明ヲ承リマスルト、足尾ニ非常ニ重ヲ置カレテ居ル、佐野町ト足利町デアッタナラバ、能ク統計ナド御示ニナリマスルガ、是ハ自分ヨリ申上ゲルマデモナイ、織物社會ナド云フモノハ時々刻々違フ、勝手ナコトヲ云ヘバ佐野アタリデハ昨今縮ト云フモノハ海外ニ餘程出ル、支那印度地方ニ澤山出マス、是等ハ止メニ致シマシテ、過日司法次官カラ足尾町ノ刑事ノ統計ヲ御示ニナッタ、刑事問題ハ云フマデモナク勞働者ガ數多小サナ所ニ有象無象集ッテ居、コッチデモ喧嘩ヤッタ、アッチデモ喧嘩ヤッタト云フコトニナル、彼處ヘ行ッテ御覽ニナレバ分ル、博奕ハ絶エナイ所デアリマス、刑事問題ハ御示ニナリマシタガ、訴訟問題ハ御示ガナイカラ私カラ質問シタコトガアリマス、サウ云フ狀態デ、昔アツタ所ノ佐野町ヲ足利ニ換ヘルト云フコトハ、非常ナ理由ガナケレバナラスト思ヒマス、唯足尾一町ノ故ヲ以テ足利ニ換ヘルト云フコトニナッテハ本員ノ服サヌ所以デアリマス、又不幸ニシテ銅山ニ異變デモアリマシタナラバ、何万人ト云フモノハ皆逃ゲテ仕舞フ、サウスルト元ノ村落ニナル、到底彼處ニ住ンデ居ル者ハ、從來ノ者ハ率ザ知ラズ、所有權ナドヲ有ッテ居ル者ハ僅々タルモノト考ヘラレル、斯ウ云フ譯デ足尾町ニ重ヲ置イテ足利町ニ置クト云フコトハ、ドウシテモ本員ノ服セザル所デゴザイマスガ故ニ、修正案ニ同意シタト云フコトヲ申述ベテ置キマス

○議長(公傳徳川家達君) 他ニ發言者モナイト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本院規則第七條ニ依リマシテ記名投票ニ依ッテ採決ヲ致シマス、念ノ爲諸君ニ申上ゲマス、第八條ニ依リマシテ、問題ヲ可トスル議員、即チ阪本男爵ノ修正說ニ同意ノ諸君ハ白色票ニ、反對ノ諸君ハ青色票ニ氏名ヲ御記シテ請ヒマス、例ニ依リマシテ、議席ヘ投票ヲ集メニ書記官ヲ差出シマス

〔書記官投票ヲ取集ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 投票漏ハゴザイマセヌカ……投票漏ハナイト認メ
マスカラ計算ヲ致サセマス

〔書記官投票ヲ計算ス〕

○議長(公爵徳川家達君) 記名投票ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、投票總數八百八十、阪本男爵ノ修正案ヲ可トスル者八十四、否トスル者九十六、故ニ阪本男爵ノ修正案ハ否決セラレマシタ……暫ク御靜肅ニ願ヒマス

〔參照〕

賛成 八十四名

反對 九十六名

賛成者氏名

侯爵徳川 頼倫君	侯爵蜂須賀 正詔君	侯爵徳川 圀順君
侯爵細川 護立君	侯爵佐竹 義春君	侯爵佐佐木 行忠君
伯爵柳澤 保惠君	伯爵廣澤 金次郎君	伯爵大木 遠吉君
伯爵柳原 義光君	伯爵松平 頼壽君	伯爵小笠原 長幹君
子爵實吉 安純君	小野田 元熙君	男爵石黒 忠恵君
高崎 親章君	男爵山根 武亮君	荒川 義太郎君
男爵宇佐川 一正君	男爵高千穂 宣麿君	男爵坂本 俊篤君
男爵名和 長憲君	古市 公威君	男爵西 紳六郎君
男爵太泰 供康君	男爵武井 守正君	男爵阪井 重季君
男爵阪谷 芳郎君	男爵内田 正敏君	男爵山内 長人君
男爵新田 忠純君	男爵南岩倉 具威君	男爵山内 豐政君
男爵徳川 厚君	男爵船越 光之丞君	男爵千秋 季隆君
男爵北大路 實信君	男爵斯波 忠三郎君	男爵眞田 幸世君
男爵安場 末喜君	男爵伊丹 春雄君	男爵長松 篤葉君
男爵本田 親濟君	男爵島津 長丸君	男爵神山 郡昭君
男爵楠本 正敏君	男爵清水 資治君	男爵永山 盛興君
男爵横山 隆俊君	男爵岩倉 道俱君	男爵赤松 範一君
男爵今園 國貞君	男爵佐竹 義進君	男爵藤村 義朗君
男爵二條 正麿君	男爵小畑 大太郎君	男爵調所 恒徳君
男爵東郷 安君	男爵矢吹 省三君	男爵岩 佐 新君
男爵寺島 敏三君	男爵高崎 弓彦君	男爵藤田 平太郎君

反對者氏名

侯爵花山院 親家君	伯爵萬里小路通房君	伯爵清棲 家教君
伯爵兒玉 秀雄君	伯爵堀田 正恒君	男爵小澤 武雄君
子爵唐橋 在正君	子爵一柳 末徳君	子爵大宮 以季君
子爵井伊 直安君	子爵土方 雄志君	子爵松平 康民君
子爵久留島 通簡君	子爵本多 忠敬君	子爵樋口 誠康君
子爵東坊城 徳長君	子爵松平 直徳君	子爵青木 信光君
子爵冷泉 爲勇君	子爵牧野 忠篤君	子爵酒井 忠亮君
子爵永井 尙敏君	子爵五辻 治仲君	子爵前田 利定君
子爵櫛笥 隆督君	子爵西大路 吉光君	子爵井上 匡四郎君
子爵五條 爲功君	子爵榎本 武憲君	子爵京極 高備君
子爵京極 高義君	子爵今城 定政君	子爵吉田 清風君
子爵大給 近孝君	子爵本多 忠鋒君	子爵豐岡 圭資君
子爵藪 篤麿君	子爵秋月 種英君	子爵伊東 祐弘君
子爵松平 乘長君	子爵堤 雄長君	子爵白川 資長君
子爵野村 益三君	子爵池田 政時君	子爵丹羽 長徳君
子爵清岡 長言君	子爵八條 隆正君	子爵新庄 直知君
子爵小笠原 勁一君	子爵西尾 忠方君	子爵板倉 勝憲君
子爵米倉 昌達君	男爵高木 兼寛君	男爵山中 信儀君
阿部 浩君	松室 致君	大山 綱昌君
男爵中川 興長君	男爵村上 敬次郎君	河村 讓三郎君
石塚 英藏君	男爵西村 精一君	小松 謙次郎君
男爵肝付 兼行君	男爵藤井 包總君	岡田 良平君
荒井 賢太郎君	中村 是公君	水野 鍊太郎君

男爵小早川 四郎君 男爵若王子 文健君 男爵中島 久萬吉君
男爵安藤 直雄君 男爵藤堂 高成君 高橋 琢也君
石渡 敏一君 加太 邦憲君 阪本 鈺之助君
橋本 圭三郎君 倉知 鐵吉君 山之内 一 次君
室田 義文君 安樂 兼道君 南 弘君

田所 美治君 江原 素六君 八木 久兵衛君
伊藤 傳七君 佐藤友右衛門君 竹村與右衛門君
伊丹 彌太郎君 二階堂三郎左衛門君 藤本 閑作君
高橋 源次郎君 成清 信愛君 櫻井 伊兵衛君

〔加太邦憲君發言ノ許可ヲ求ム〕
○議長(公爵徳川家達君) 加太君ハ何デスカ
○加太邦憲君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ……
○議長(公爵徳川家達君) マダ早ウゴザイマス……是ヨリ原案ニ付テ決ヲ探
リマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數
○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス……次ニ問題ニ供シマスノハ、
唯今ノ阪本男爵ノ修正セラレマシタ場所以外全部ヲ問題ニ供シマス、全部原
案ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
○加太邦憲君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ……
○子爵前田利定君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第三讀會ヲ開キマス、全部第二讀會ノ決議通りデ
御異存ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、唯今阪本男爵ノ修正案ガ
否決セラレマシタ結果、日程第八ノ大正二年法律第九號中改正法律案ニ對ス

ル阪本男爵ノ修正案ハ撤回セラレマシタ、此際規則第一百一條ニ依リマシテ採
決イタシマス、阪本男爵ノ修正案撤回ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第八、大正二年法律第九號中改正法律案、政
府提出、衆議院送付、第二讀會……全部ヲ問題ニ供シマス、全部同意ノ諸君
ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス
○加太邦憲君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ……

○子爵青木信光君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りデ御異
存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第九、不動産登記法中改正法律案、政府提出、衆
議院送付、第二讀會、全部ヲ問題ニ供シマス、全部原案ノ通りデ御異存ゴザイ
マセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○加太邦憲君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
○子爵八條隆正君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ御異存ガゴザイマセヌケレバ日程第十ヨリ第十二マデ委員長ノ報告ヲ煩ハシマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 第十、帝國大學特別會計法中改正法律案、第十一東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案、第十二、大正七年法律第四號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

帝國大學特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年二月二十六日

右特別委員長

侯爵徳川 圀順

貴族院議長公爵徳川家達殿

東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年二月二十六日

右特別委員長

侯爵徳川 圀順

貴族院議長公爵徳川家達殿

大正七年法律第四號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正八年二月二十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔侯爵徳川圀順君演壇ニ登ル〕

○侯爵徳川圀順君 東京帝國大學特別會計法中改正法律案、東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案、大正七年法律第四號中改正法律案ノ三案ニ對シテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、委員會ニ於キマシテハ三案ヲ一括シテ議題ニ供シ、政府委員ヨリ提出ノ理由ニ付キマシテ詳細ナル説明ガアリマシタ、第一案ハ學術ノ進歩發達ヲ圖ルニハ學者ニ對シテ相當ノ待遇ヲ要シマスノデ、大學ノ教授、助教授ニ相當ナル増俸ヲ爲スコト、又東京帝國大學ノ文學部ニ教育科ヲ設置シテ講座ヲ増シマスノデ、政府支出金ノ増加ヲスル必要上、特別會計法ヲ改正スル次第デアリマス、第二案ハ東京帝國大學工學部竝ニ京都帝國大學工學部及醫學部ノ擴張ヲナス爲ニ、兩帝國大學ニ對シテ一般會計ヨリ臨時政府支出金ノ繰入ヲ要スル結果デアリマス、第三案ハ此法律制定當時ニ於キマシテハ時局ニ關係シテ臨時手當ヲ支給セラル、場合ハ判任官其他ノ者ニ限ラレテ居リマシタガ、今一般一般官吏ニ臨時手當ヲ給スルコトニ豫算ノ上ニ要求セラレテアル結果、大學ニ於キマシテモ勅奏任官一般ニ對シテ臨時手當ヲ支給スル必要ガ起リマシタノデアリマス、ソレト其他ノ諸經費ノ不足ヲ補充スル爲ノ案デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ審議ノ結果、時局柄已ムヲ得ヌモノト認メマシテ、全會一致ヲ以テ三案共ニ之ヲ可決イタシマシタ、此段御報告イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、唯今委員長ノ報告セラレマシタ三案トモ東ネテ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○子爵野村益三君 唯今委員長ヨリ報告ガアリマシタル如ク、本案ハ極メテ簡明ナルモノデアリマス、別ニ御質問モ無イヤウデアリマスルカラ、讀會ヲ省略サレテ、直チニ可決確定アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵八條隆正君 賛成

○子爵池田政時君 賛成

○子爵秋月種英君 賛成

○子爵伊東祐弘君 賛成

右特別委員長

侯爵徳川 圀順

○子爵五條爲功君 賛成

○男爵南岩倉具威君 賛成

○子爵西大路吉光君 賛成

○男爵内田正敏君 賛成

○子爵青木信光君 賛成

○子爵吉田清風君 賛成

○子爵本多忠鋒君 賛成

○男爵石黒忠恵君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

○男爵阪井重季君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 野村子爵ノ讀會省略ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵徳川家達君） 三分ノ二以上ト認メマス……原案ニ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス、次ノ議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御承知ヲ請ヒマス、本日ハ是ニテ散會

午後三時四十一分散會

